

| 番号     | タイトル                                  | 解説   | ページ数 | 備考         |
|--------|---------------------------------------|--|------|------------|
| 0-A    | 人口問題                                  | 人口問題を考えるためのワークショップ構成案。データも豊富に収録。   | 12   |            |
| 0-B    | 小さな島の開発問題                             | 日本の商社マンが木材輸入のため小さな島にやって来た！住民たちはさあどうする？   | 15   |            |
| 0-C    | グローバルな視点からとらえた環境教育                    | プログラムづくりや小・中学校向けカリキュラムへの組み入れ方のヒントを提示。  | 13   |            |
| 0-D    | 地球の未来はみんなの手で！                         | アクションプランをつくるには？など、ワークショップを開くとき役立つ情報を紹介。  | 31   |            |
| 0-E    | Global Seminar '96 報告書                | 「データに親しむ・『地球のみかた』のアクティビティを体験する」がテーマの2日間。   | 108  |            |
| 0-F    | マナミヤ（日本語版）                            | ジェンダーの視点から開発の問題に迫るシュミレーションゲーム。Returned Volunteer Action 編。   |      | 3500円      |
| 0-G    | わたしからはじまるコミュニケーション                    | コミュニケーションスキルを2人（パディ）組でトレーニング。ワークシート集   | 47   |            |
| 0-H    | フューチャーサーチ 会議報告書                       | 様々なセクターの人々が利害を越えて取り組む未来の行動計画づくり。   | 56   |            |
| 0-I    | 市民参加のためのガイドブック翻訳資料集                   | 環境保護に関する公的な意思決定に市民が参加するためのガイドブック。  | 46   |            |
| 0-J    | 99年度ERIC通信第三世代 バックナンバー                | 教育に対する提案や最新アクティビティを掲載。これであなたもERIC通。（ <a href="https://ericletter.exblog.jp/">https://ericletter.exblog.jp/</a> ） |      | 左記でご覧になれます |
| LB1-1  | クロマグロの悲劇                              | マグロ漁業のシュミレーションを通して、共有物の枯渇と資源の有限性を自身で体験する環境教育の代表作。  |      | 3500円      |
| LB1-2  | ワールドカード（フロッピー版）                       | 人口や森林面積など様々な指標が1枚のカードになった！（132ヵ国分）使い方も工夫次第   |      | 在庫切れ       |
| LB1-3  | ペドロの開発                                | 途上国の人々の気持ちにせまる開発のシナリオ。みんなでロールプレイしてみよう。   | 24   |            |
| LB1-4  | 貿易ゲーム ERIC版                           | ERIC独自の視点を入れた、グローバルに展開される自由競争と貿易を熱く体験！   | 6    |            |
| LB1-5  | 緑を求めて                                 | 熱帯雨林問題を題材に、生態系の保全と経済との関係を学ぶボードゲーム。『地球のみかた』所収ゲームの別売版  | 14   |            |
| LB1-6  | 総合的な学習5つの提案                           | 総合的な学習を創る時に必須の参考資料。ERICの積み上げてきた学びを凝縮。  | 10   |            |
| LB1-7  | わたしのあなたのみみんなの 会議No.2<br>組織運営ガイドラインづくり | 人権に配慮した組織運営を行うためのガイドライン。<br>NPO/NGO関係者必携！  | 16   |            |
| LB1-8  | Let's コミュニケート わたし編                    | 感覚、気づきなど自分自身との対話の能力を磨くためのワークブック。   | 18   |            |
| LB1-9  | Let's コミュニケート あなた編                    | コミュニケーションに必要な「伝える技術」の練習帳。ぜひわたし編とごいっしょに。  | 18   |            |
| LB1-10 | 環境指導者育成マニュアルカリキュラムガイドライン              | 総合的な学習に環境の視点を取り入れるためのカリキュラムの枠組みづくりの提案。   | 18   |            |
| LB2-1  | わたしは問いかけつつ...                         | 新しいがくねんが始まる時に、教育のあり方や課題について、考えてみませんか。問いかけつつ作る総合学習。自己チェックリスト付。  | 6    |            |
| LB2-2  | 学級のルールづくり                             | 学級を高め合う仲間にしていくためのルールを最初に子どもたちと作りましょう！  | 2    |            |
| LB2-3  | 学校は...である                             | 子どもたちは何を学校に期待しているのだろうか。学校をよりよいコミュニティに！   | 2    |            |
| LB2-4  | あなたならどうする？                            | 自分のいいところを活かして、状況をどう打開するか。セルフエスティームと効力感を高めるアクティビティ。   | 3    |            |
| LB2-5  | 差別を見逃さない!?                            | 子どもたちの気になる言葉や態度、すぐに指摘したいけど、どうしよう？一緒に考えよう   | 4    |            |
| LB2-6  | 国旗・国歌はおもしろい                           | 国際理解教育の視点から国旗・国歌を扱う授業案14。年間を通して組み立てよう。   | 4    |            |
| LB2-7  | TEST教育力向上講座                           | ERIC恒例の春の教育力向上講座。2000年3月25-27日の内容はこれだ！元気が出るよ。  | 12   |            |
| LB2-8  | GS'99国際理解教育実践事例（18事例）                 | ERICのグローバル・セミナーで、先生方から出していた教育実践例。  | 20   |            |
| LB2-9  | ワールドカード（レイアウト版）                       | ワールドカードがきれいに印刷された132枚のカードでお手元に。すぐに使えます。  |      | 在庫切れ       |
| LB2-10 | ワールドカード（フロッピー版Windows用）               | 人口や森林面積など様々な指標が1枚のカードになった！（132ヵ国分）使い方も工夫次第。  |      | 在庫切れ       |
| LB3-1  | 高齢者の人権を考える                            | 高齢者福祉のボランティアなどに取り組む時に、高齢者の人権のために、何が満たされなければならないか、共に考えましょう。   | 4    |            |
| LB3-2  | ボランティアって何だ                            | 夏休み、生徒たちのボランティア体験を進めたい。主体的に取り組んでもらうための工夫は何だろう？ 3時間のレッスン・プラン  | 6    |            |

|        |                          |   |    |
|--------|--------------------------|---|----|
| LB3-3  | 言葉以外でも伝わるよ               | コミュニケーションの7割は非言語的に、言葉以外の態度や語調で伝わります。豊かなコミュニケーション体験を子どもたちに。                            | 8  |
| LB3-4  | 雨の日のエネジャイザー              | エネジャイザーってご存じですか。からだを動かすことで集中力を高める方法です。雨の日でも、思いっきりからだを動かそう。                            | 12 |
| LB3-5  | 学級は、育ったかな？               | そろそろ、学期もなかば過ぎ。うまく行ったこと、行かなかったこと、ふりかえてみましょう。また、評価を子どもと共有しよう。                           | 10 |
| LB3-6  | 静けさの時                    | イメージワークを中心に子どもたちに集中と静けさをもたらす方法。   | 6  |
| LB3-7  | もしも、世界がひとつの村ならば          | 『フード・ファースト・カリキュラム』のアクティビティのデータを新しくしました。これだけでも、すぐ使えます。                                 | 6  |
| LB3-8  | 人権教育のプログラムづくり            | 流れのあるプログラム、テーマや対象に合わせたプログラムづくりの基本です。  | 16 |
| LB3-9  | 人権教育のカリキュラムづくり           | 国際協力講座全12回を参加型で教える教材とカリキュラム構成。恵泉女学園での実践より   | 14 |
| LB3-10 | 大学生のための国際関係論入門カリキュラム     | 国際協力講座全12回を参加型で教える教材とカリキュラム構成。恵泉女学園での実践より。  | 14 |
| LB4-1  | 多文化主義的観点からの授業案例          | バンクスの「入門 多文化教育」を基に多様な歴史の見方を教材化  | 6  |
| LB4-2  | アサーション トレーニングワークシート      | アサーションとは非攻撃的の自己主張のこと。現在、最も役に立つコミュニケーションスキル。   | 8  |
| LB4-3  | PLT環境教育指導者育成 プログラム       | ERICが主催した8月22-24日の研修（PLT：Project Learning Tree木と学ぼう）                                  | 12 |
| LB4-4  | 対立を扱うためのプログラムとワークシート     | サイモン・フィッシャーによる日本初RTC（Responding To Conflict 対立を解きほぐそう）のプログラム                          | 13 |
| LB4-5  | コンフリクトの扱い方 チェックリスト       | 日常の対立をいかに扱っているかに気づくための200項目   | 4  |
| LB4-6  | 高校における「国際理解」教育の実践        | ERICが高校2年生を対象に実践している「国際理解」の授業を報告  | 8  |
| LB4-7  | エネルギーと地球温暖化について考える       | 自分自身のエネルギーと世界のエネルギー消費の比較、各国の主張をロールプレイしてジレンマを考える                                       | 12 |
| LB4-8  | ERICについて（1999年度活動報告書）    | ERICはどのような組織、活動をしているのかを紹介   | 10 |
| LB4-9  | ERIC実践プログラム集             | 人権と環境の分野に関する委託研修プログラム。グローバルセミナーにて紹介   | 20 |
| LB4-10 | ERIC通信型研修テキスト シラバス       | 通信型研修にて単位を取得を目指す方向へのガイド   | 20 |
| LB5-1  | 歴史の歴史                    | 「歴史」とは？歴史学の位置付けが時代とともに変化していることに目をむける  | 4  |
| LB5-2  | 聞く姿勢を育てる                 | 相手の話から学び、自分自身が変わっていく可能性を開くためのレッスンプラン  | 5  |
| LB5-3  | 地球環境問題とNGOの役割            | 環境問題を通して、社会を変えていくための方法を考える。（アクティビティ「ラプカナルの住民運動」含む）                                    | 15 |
| LB5-4  | ライフスタイルと住居               | 住居の間取りから、文化やライフスタイルの違いについて考えよう  | 5  |
| LB5-5  | フェイス・リーディング 表情＝気持ちを表わす?! | 気持ちを読み取りは、人によって様々。きちんと相手に伝えることを学ぼう  | 5  |
| LB5-6  | これって対立？                  | 対立とは何かについて考えるための導入のプログラム。対立の事例が楽しい  | 2  |
| LB5-7  | ERICのジェンダープログラム          | 市町村行政職員を対象にした3年間のジェンダーについてのプログラム  | 9  |
| LB5-8  | 未来型コミュニケーションについて考える      | 21世紀にむけて一人ひとりが生きやすいコミュニケーションとは何か  | 7  |
| LB5-9  | 総合学習「国際理解」               | ERICと現役高校2年生とが、ともに歩んだ2学期のプログラム  | 15 |
| LB5-10 | セルフエスティームの構成要素           | セルフエスティームとは何か？わたしを信じたり、尊重するということを育てる4ための視点を紹介   | 6  |
| LB6-1  | ワールド・スタディーズの10年          | ワールド・スタディーズの著者サイモン・フィッシャーと現場の教員がこの10年の取組を座談会で語り合いました。その記録。ワールド・スタディーズの開発の経緯にも触れられている。 | 12 |
| LB6-2  | 新しい学級で最初に行う活動            | 緊張をほぐすような協力ゲームなどの事例を19ほど紹介しています。  | 5  |
| LB6-3  | 日本型コンフリクト・ワークショップ        | 日本型の対立はあるのか？を課題に9名のファシリテーターが考える開発ワークショップの成果です。  | 12 |
| LB6-4  | 評価についての考え方               | 総合学習における評価の考え方をまとめたものです。  | 4  |
| LB6-5  | カリキュラム・ガイドライン 人権         | 環境教育に続く第2弾。人権教育は21世紀の新しい教育課題。そのカリキュラムを立案するときに参考になります。                                 | 16 |
| LB6-6  | 子どものエネルギーを引き出す活動         | グループ活動によってエネルギーを活性化させる活動を18ほど紹介しています。   | 5  |
| LB6-7  | 高校 国際理解 「調べ学習の進め方」       | 竹台高校国際理解の授業実践報告。今回は3学期に行った調べ学習の進め方をまとめました。  | 4  |

|        |                               |   |    |
|--------|-------------------------------|---|----|
| LB6-8  | 女性企業家のためのジェンダートレーニング（英文）      | JACA「女性起業家のための研修」コースのテキストとして作成したものの。  | 20 |
| LB6-9  | 足立区 住民参加による公園活用を考える           | 住民参加で公園の活用を考えました。住民と行政との情報共有やパートナーシップについて参考になります。                                 | 13 |
| LB6-10 | ERICニュースレター5号～8号              | ニュースレターのバックナンバーを一挙に読むことができます。毎月特集の教育ページは新しい視点がいっぱい！                               | 20 |
| LB7-1  | 食べものを通して考えよう（改訂版）             | 食べものを通して考えようのデータを新しくしました。   | 6  |
| LB7-2  | サークルタイムで子どもたちの能力を高めよう         | 子どもたちの関係がよくなるような、ホームルームで活用できるアクティビティを紹介。  | 5  |
| LB7-3  | ERIC受託研修2000年度実施プログラム         | 2000年度の人権、環境、国際理解に関する受託研修プログラムの紹介。  | 19 |
| LB7-4  | 中高生のエッセイを読もう                  | 国際強力事業団の高校生エッセイコンテスト2000優秀作品などを読んで。   | 3  |
| LB7-5  | 廃棄物処理場はもう満杯-UNOで学ぶ            | 市販のゲームで遊ぶアイデア。廃棄物の現状をJ実感する。   | 2  |
| LB7-6  | 高校生のためのフューチャーサーチ              | 高校1年生を対象とした、オリエンテーションを兼ねた2日から3日のプログラム   | 4  |
| LB7-7  | 食物連鎖を学ぶ シャンペンペンタワー            | 市販のゲームを応用するアイデア。環境教育の基本概念を教えるのに有効。  | 3  |
| LB7-8  | 国際理解の指導に役立つインターネットの活用Webサイト集  | 「国勢理解」の観点から50サイトをセレクトし、メディア情報を含むものを加え、合計150を厳選し収録。                                | 12 |
| LB7-9  | カリキュラムガイドライン 国際               | 国際理解教育のカリキュラムを創るためのテーマと目標などを、先行事例から学ぶ。  | 14 |
| LB7-10 | 「かながわ環境白書」を考えるパートナーシップ会議の活動記録 | 環境白書のあり方や改善提案を行政と市民が話し合った活動の記録。   | 12 |
| LB8-1  | あなたは信じる？信じない？                 | 大安・仏滅や葬式の清めの塩、人権や差別に関わって問題にされているが、それはなぜなのかを考えるためのアクティビティ。                         | 6  |
| LB8-2  | ラブカナルの住民運動                    | 20人以上のクラスでもすぐやれるフォーマットで提供。NGOの役割、市民社会についてのアクティビティ。                                | 28 |
| LB8-3  | ゴー・フィッシュ                      | 資源の有限性に気づき、その持続的な利用には何が必要かをシミュレーションするアクティビティ。                                     | 5  |
| LB8-4  | 日本文化の○△□                      | 文化的特性についての分析から、わたしたちが異質な人々との出会いにおいて気をつけるべきことは何かを考える。                              | 3  |
| LB8-5  | じゃんけんゲーム                      | 身についてしまった習慣は頭で分かっているでも変えることは難しい。それを実感するアクティビティ。                                   | 1  |
| LB8-6  | 教科書を比べてみよう                    | 教科書の比較を通じて、歴史の記録・記述について考える。   | 3  |
| LB8-7  | コミュニティと参加                     | 大阪でのファシリテーター育成研修のワークシートとその記録。   | 20 |
| LB8-8  | 差別のある社会の全体的不利益                | 差別をする側、される側の共通の課題としてとらえることに気づくアクティビティ。  | 2  |
| LB8-9  | ERICの男女共同参画研修プログラム            | 市町村行政職員を対象にした研修プログラムの紹介。  | 4  |
| LB8-10 | ERICの省資源・省エネルギー研修プログラム        | 市町村行政職員を対象にした研修プログラムの紹介。  | 4  |
| LB9-1  | 高校生と考える 国際協力・国際援助             | アクティビティやゲストの話を通して理想的な国際協力・援助の姿を考えていく授業実践報告  | 8  |
| LB9-2  | 高校生と考える メディア                  | 米国同時多発自爆型攻撃事件をメディア・リタラシの側面から検討する授業例を紹介する  | 5  |
| LB9-3  | 高校生と考える 対立の背景                 | 高校生と米国攻撃事件を考えるに当たってベースになる知識を参加型でどのように提供できるかを試みた記録                                 | 7  |
| LB9-4  | 高校生と考える 対立の解決・アドボカシー          | 米国攻撃事件をもとに、対立の解決・アドボカシーを考える3ステップ「①人権・差別とは②日本・NGOの役割③アドボカシーしよう」を紹介。ゲスト授業も。         | 12 |
| LB9-5  | 視点メガネ ロールプレイ                  | 貿易センタービルが攻撃された直後から、世界の人々の意見の表明があった。対立の初期の段階で影響力のあるユニークな人・団体の意見を背景に視点メガネを手がかりに考える。 | 4  |
| LB9-6  | ふりかえりの時                       | 大きな事件が起こった時、子どもたちの感情の扱い方と、共有についてのヒント。また、発展として1年間の10大ニュースづくり。                      | 2  |
| LB9-7  | アフガニスタン、これから                  | 事件について発せられた、いくつかの声明やメッセージを手がかりに、国際社会における対立の扱い、和平に向けたプロセスを考える。                     | 12 |
| LB9-8  | わたしの、あなたの、みんなの人権              | 大田区の区民を対象とした連続人権講座プログラム。と場見学を含め10回の実践。  | 6  |
| LB9-9  | 電車内でのマナーを考える                  | 電車内の気になるマナーを通じて、公共性や人間関係のあり方について考える。  | 5  |
| LB9-10 | 人権尊重を学ぶー新しい人権教育プログラム          | 人権尊重のスキルや実践を学ぶことを中心的課題とした研修プログラムの紹介   | 4  |
| LB10-1 | これって公正？                       | 「正義」「公正」などの概念についての理解を共有し、反射的行動で指摘するためにトレーニングする。                                   | 2  |
| LB10-2 | あいさつゲーム                       | 「異質なものと出会う」異文化体験ゲームの簡便なやり方を工夫したもの。ふりかえりによっては様々な学びや気づきにつながる。                       | 2  |

|         |                                     |  |    |
|---------|-------------------------------------|--|----|
| LB10-3  | アドボカシー・ビンゴ                          | "わたしたちが意外に身近なところで「社会的意見表明」につながることを行っていることの自覚をうながす。また、自己採点表がついている。"                         | 3  |
| LB10-4  | 難民－定着への課題                           | "難民の受け入れとは庇護国において定着できること。生活の基盤の安定のためには、どのようなことが必要かを中学生の目から考える。"                            | 4  |
| LB10-5  | 難民について－「わたし」は誰？                     | "緊急持ちだしの時、わたしたちは何を大切にしようか。「わたし」の人権が守られることは、「わたし」が何者であるかに関わらないことを学ぶ。"                       | 2  |
| LB10-6  | 難民「逃げる」－シミュレーション・ゲーム                | 『新しい開発教育II』の「逃げる」難民体験を改良した実践版の報告。実施には協力者が複数必要。リアルな情報が役立つ。ゲームとして進行できる。                      | 4  |
| LB10-7  | 難民－わたしたちの心の問題                       | "なぜ、わたしたちの社会が難民を受け入れないのか、それを心の問題としてとらえ、これからの国際社会で共に生きるための心を育てるためのプログラム。"                   | 6  |
| LB10-8  | 難民－人間の安全保障                          | わたしたち一人ひとりの「安全保障」は誰に責任があるのだろうか。「国家安全保障」が優先される考え方から「人間の安全保障」という考えへの変化を理解する。                 | 2  |
| LB10-9  | 難民の受け入れ－国ってなあに？                     | "国づくりの話し合いに「難民を受け入れるかいか」を取り入れることで、人間にとっての安全保障とは何かについて考える。『テーマワーク』『国ってなあに』の発展。"             | 5  |
| LB10-10 | 難民と開発－TSWバージョン                      | TSW「持続可能な社会に向けた教育」のための指導者養成カリキュラムに含まれている難民問題の扱い方。身近な問題についての調べ学習を含む展開がグッド。                  | 8  |
| LB10-11 | 子育ての悩み相談室                           | "子育てについて同じような悩みをかかえる大人同士で、お互いをサポートする風土を創る。"  | 8  |
| LB10-12 | 万引きゼロ・トレランス・ポリシー                    | "学校コミュニティの抱える課題として「万引き」を取り上げ、「ゼロ・トレランス非寛容主義」によってなくしていくためのステップを考える。"                        | 8  |
| LB10-13 | クロマグロの悲劇-特別バージョン                    | "誰しもが一度はやってみたい「クロマグロの悲劇」。いったい、ERICの総力をあげて取り組み、どんな展開まで可能なのか。海洋資源管理についての解説付。"                | 6  |
| LB10-14 | 高校における「国際理解」<br>みんなで取り組むアドボカシー      | 高校生が米国攻撃事件をきっかけに半年間学んだことをメッセージにして発信！「平和へのメッセージ」ビデオも完成！（竹台高校3学期の取り組み）                       | 9  |
| LB10-15 | ビジネス英語－異文化から前向きな態度を学ぶ               | 英語文化はポジティブネスがキーワード。英語を使う場面で必要なビジネス・マインドを「自己紹介」「対立の扱い方」「新しいサービス」の寸劇づくりで体験。                  | 14 |
| LB10-16 | 多様性アيسプレイカー                         | "翻訳出版準備版。多民族社会を前提としたアクティビティなので、どう使いこなせるかを検討するのに協力できる人だけに提供する。"                             | 3  |
| LB10-17 | 参加型手法早わかりチャート                       | "ERICが提供しているさまざまな手法について、それぞれの手法についての解説、発達段階別、主催研修別早わかりチャートで紹介したものを。"                       | 4  |
| LB10-18 | 参加型の系譜                              | "参加型という方法論の背景となるものは多い。ERICが活用している手法についてその背景にあるものから、参加型の意義について考える。"                         | 7  |
| LB10-19 | ERIC受託研修2001                        | "これまでの研修の傾向の分析、ファシリテーターが推薦するプログラム例を紹介。研修を企画する方はぜひ参考にしてください。"                               | 10 |
| LB10-20 | ERIC2002主催研修－国際理解 for Peace         | "ERICの主催研修について、その組み立てを「ファシリテーター・スキル」などから分析、紹介した詳しい案内。今年は「平和」につながる国際理解教育の実践を進めよう!"          | 6  |
| LB10-21 | レッスンバンク・バックナンバー（一覧）                 | 今まで発行のレッスンバンクのタイトルを「アイウエオ順」に一覧表にしました。  | 2  |
| LB11-1  | 日本語を第一言語としない児童・生徒のいる学級で             | 日本語を第一言語としない子どもの気持ちに少しでも近づき、同じ仲間として育ってゆく学級づくりのヒントになる活動を紹介いたします。                            | 6  |
| LB11-2  | 多文化社会の実現の場としての学校/学びのコミュニティづくり       | 子どもが育ち、子どもを育てる、学校や学習の場のあり方はどうなっているのか。子どもたちや地域にとって多文化社会の実現の場としての学校/学習の場のあり方を考える。            | 6  |
| LB11-3  | 被害を受け止める・当事者を支援するとは                 | ドメスティック・バイオレンスをもとに、身近な人間関係で被害が起こった時の対応、潜在化しやすい暴力の根本原因や、より広い視点での社会の取り組みを考えます。               | 10 |
| LB11-4  | ジェンダー・アウェアネス・プログラム「Gap」<br>13のモジュール | 4つの柱、13のモジュールは男女共同参画講座などのカリキュラム・プログラム企画に有効。Gapの構造と各モジュールのプログラムの流れ/アクティビティ名/3日間の実践プログラムを紹介。 | 7  |
| LB11-5  | 男女共同参画社会行動計画づくり                     | これから男女共同参画社会行動計画を創っていくための職員研修のプログラム案。住民参加のワークショップのためのプログラムとしても応用可能。                        | 4  |

|         |  |   |    |
|---------|--|---|----|
| LB11-6  | 子どもの発達とライフスキル                            | 子どもの「正義感」の発達に合わせて、どのようなスキルを身につけていくことが、正義感の実践力につながるのかを考える。                                 | 6  |
| LB11-7  | 二十歳になったら分籍しよう-成人式版                       | 成人式、あるいは卒業式などをきっかけに「戸籍」あるいは「国籍」ということについて共に考える機会を持つ。蓄積的視覚化手法を活用する大人数ワークショップ向き。             | 4  |
| LB11-8  | グローバルセミナー2002 生涯学習社会に向けて                 | 今年のグローバルセミナーは「民主的スキル」とは何かを考える新たな試みでした。「民主的スキル」150項目含む。                                    | 10 |
| LB11-9  | プロセスファシリテーターへの道-自治体職員研修                  | 市民と共に「参加」をデザインするプロセス・ファシリテーター養成講座3日間の研修プログラム例。  | 5  |
| LB11-10 | 地域のファシリテーター養成プログラム                       | 地域の人材や資源をいかに学習活動に結びつけるか。地域の人々とともにいったファシリテーター養成プログラム。(4時間×3日間)                             | 10 |
| LB11-11 | ERIC主催研修2002<br>①「国際理解教育基礎」講座            | 国際理解、平和をテーマに、アクティビティ中心としたファシリテーター養成プログラム。世界を読み解くための「データリテラシー」のスキルにも迫る。                    | 13 |
| LB11-12 | ERIC主催研修2002<br>②「グローバルな課題と地域をつなぐ」講座     | 持続可能性をテーマに、プロセス・ファシリテーターに必要な要素を取り入れた3日間プログラム。   | 13 |
| LB11-13 | 2002年度栄光セミナー<br>第一回「総合的な学習」をいかに教えるか      | 総合的な学習の全体像やめざすもの、授業に役立つ気づきのアクティビティから推進の枠組まで、ポイントを押さえた講座。                                  | 5  |
| LB11-14 | 2002年度栄光セミナー<br>第二回「総合的な学習におけるライフスキルの指導」 | 学習者といっしょに伸ばしたいスキル指導。自己理解、対立の扱い方、コミュニティの課題解決まで。  | 7  |
| LB11-15 | 国際理解「[国]つてなに？」                           | 竹台高校国際理解の授業実践記録。02年度1学期は、普段、無意識に使っている言葉の見直しから理想の国づくりを行いました。                               | 6  |
| LB11-16 | 貿易ゲームERIC版(LB11-4)の森林バージョン               | 貿易ゲームERIC版(LB11-4)の森林バージョン。森林資源と生産・消費の関係や国家間の格差について考えることができるアクティビティ。すでに貿易ゲームを知っている人におすすめ。 | 4  |
| LB11-17 | 「理想の国」で自己紹介                              | 一人ひとりが自分の「理想の国」をつくって自他の価値観や国への希望を紹介しあうアクティビティ。「国ってなに」の応用。「国際理解」を学ぶ時間の導入に使うとgood。          | 1  |
| LB11-18 | 「ビンゴ!」で気づきから行動へ                          | 自分の知識や行動のふりかえりに使うビンゴをまとめました。人権ビンゴ、環境ビンゴ、アドボカシービンゴなど5つのビンゴのアクティビティを紹介しています。                | 6  |
| LB11-19 | リオ+10からヨハネスブルク+10へ                       | リオデジャネイロの地球サミットから10年。持続可能な開発を目指す社会を検証し、ヨハネスブルクの「環境開発サミット」から次の10年に向けての行動を計画する。             | 10 |
| LB12-1  | いのちの旅の仲間たち1                              | 共にこの地球に生きる仲間として、何を学んでほしいのか、そしてそれはなぜなのかを共有するプログラム。   | 2  |
| LB12-2  | 『戦争中毒』を抜け出すために                           | 戦争を起こさない体質改善が、今求められている。グローバルな情報社会でいねいに健かに生きるとは、どのようなことを考えるための資料集                          | 8  |
| LB12-3  | わが町紹介 十代のコミュニティ意識を高めよう                   | 新しいクラスで仲間が互いに知り合う機会に、自分の住んでいる町をしっかりと見つめることを通して、学級コミュニティを育てます。                             | 2  |
| LB12-4  | お友達を集めよう! コミュニケーションスキルトレーニングアクティビティ      | 重複障害の生徒たちと共に作成したカードゲーム。大人が夢中になります。(笑)「場を読むこと」や「交渉力」などが身につきます。                             | 6  |
| LB12-5  | かんたん!さんば-植物編                             | 「10分でできる野外観察」から、フィールドトリップのアイデアを翻訳紹介。身近な植物を調査、推論・仮定、立証などの学習につなげるHowがある。                    | 6  |
| LB12-6  | かんたん!さんば-エコロジー編                          | 同上の翻訳紹介。エコロジーについて、取り上げられている概念から応用することができる。  | 3  |
| LB12-7  | Forestly Concepts:木についてのお絵書き             | 木をテーマにした絵やデザインのアイデア34。視点を変えて楽しく描くうちに、木の生態を知り、木とわたしたちのつながりの深さに気づきます。                       | 18 |
| LB12-8  | いじめのある風土・ない風土                            | 「いじめ」について共に考えるためのプログラム。扱い方、コミュニティの風土づくりの課題、子どもたちにつけたいスキルをカバー。                             | 1  |
| LB12-9  | 「子ども支援プロジェクトコンペ」発展バージョン                  | 子ども支援のための様々な制度や試みをより充実させるアイデアを競う。『いっしょにすすめよう!人権』に収録のものを一歩進めました。                           | 2  |
| LB12-10 | 地域の国際化をはかってみよう                           | 地域の国際化を何ではかるか。プロジェクト推進の枠組みと市民意識の2つの視点から指標づくりを試みます。  | 6  |
| LB12-11 | そのイメージ待った! 国と文化を理解するために                  | 私たちがいる国に対するイメージはどこで学んだのでしょうか。そしてそれはその国の人にはどのように映るのでしょうか。ギャップも学びにつながります                    | 2  |
| LB12-12 | 数で勝負! アクティビティ開発のヒント                      | 集中の原則のひとつでもある「数」。参加者を引き付けるための数値化、数量化の方法を工夫するためのトリガー的プログラム。LB12-36参照                       | 4  |

|         |   |   |    |
|---------|---|---|----|
| LB12-13 | 新版『木と学ぼう』5つのストーリーライン                        | PLT『木と学ぼう』のアクティビティを使って流れのあるプログラムを作成するためのストーリーライン。プログラム作成の幅が広がります。           | 6  |
| LB12-14 | 『木と学ぼう』から省エネルギーへ                            | 「省エネルギー」カリキュラムをPLTのアクティビティを中心に組み立てる方法の検討。導入に「身近な木」を見つめ直す活動を活用してみた。          | 5  |
| LB12-15 | 資源・エネルギーデータ集-自治体の省エネルギービジョン作成に活かす-          | エネルギーや資源について教えるための基本概念やデータをまとめたもの。関連して活用できるアクティビティも同時に紹介。                   | 10 |
| LB12-16 | 子どもの参画-スキル指導編                               | 特に社会的行動を学ぶためのアクティビティとプログラム例を紹介。何がこのようなスキルの習熟の壁になっているかも考えよう!                 | 7  |
| LB12-17 | 暴力に代わるもの-AVP/HIPPワークショップ-                   | 参加者として体験したAVP/HIPPワークショップの紹介。ERICのファシリテーションに取り入れたい、応用している優れた工夫が豊富。          | 5  |
| LB12-18 | チームで取り組む-ファシリテーターチェックリスト                    | 実践をもとに作成したチェックリストを活用して、チームファシリテーションの計画・実行・評価のプロセスを作り出すためのヒントを紹介             | 2  |
| LB12-19 | ふりかえり・評価の方法いろいろ                             | 評価やふりかえりは、よりよい取り組みや次の計画のためには欠かせません。参加型で行うふりかえり・評価の方法や視点を紹介。                 | 5  |
| LB12-20 | 指摘の仕方・受け止め方                                 | どのように「なぜ」を問いつけ止めるかは、学びあう場づくりに重要です。肯定的なコミュニケーションとしてのあり方を考えます。                | 4  |
| LB12-21 | コミュニケーション・アクティビティ                           | ワークショップで、ファシリテーターとして活用できる話合いの雰囲気づくりに役立つアクティビティをリストにまとめたもの。                  | 2  |
| LB12-22 | 『子どもの参画』を活かす                                | 子どもの権利条約で画期的な「参加の権利」。持続可能な社会創りになぜ子どもの参画が必要なのか、どんな形がありえるのかをまとめた資料            | 4  |
| LB12-23 | あなたの言葉で伝えよう-参加型研修基本概念用語集-                   | ERIC研修でよく使用される基本用語。読んで楽しい、すぐ使える用語集です。大切な伝えたい概念は自分の言葉で伝えていきましょう。             | 10 |
| LB12-24 | Hospitality English                         | 西武文理大学の英語教育用テキストとして編集、サービス経営学部の学生のためのHospitality Englishを参加型で習熟できるように配慮した   | 44 |
| LB12-25 | ERIC主催研修2002<br>③「PLT 木と学ぼう」ファシリテーター養成講座    | アメリカの環境教育プログラムPLT (Project LearningTree)の理論と内容学び、プログラム・カリキュラム作りに応用した2日間の報告。 | 8  |
| LB12-26 | ERIC主催研修2002<br>④「いっしょに考えて!人権」ファシリテーター養成講座  | 「人権としての教育」を見直すことから始め、概念的理解、スキル、コミュニティの課題解決を指導者としてどう進めるかを考えた3日間。             | 10 |
| LB12-27 | ERIC主催研修2002<br>⑤「対立から学ぼう」と日本型コンフリクト講座      | 対立についての基本概念をもとに、日本社会の対立の特徴、集団対集団の対立の分析、ビジョンを共有。タブーを超えるプロセスの試みも。             | 10 |
| LB12-28 | ERIC主催研修2002<br>⑥教育力向上講座 ファシリテーターを考える       | 「カリキュラム」「参加の文化」「鍵となる質問」ほか様々な側面から課題を探る学びの場づくりの担い手のための3日間のプログラム。              | 10 |
| LB12-29 | 2002年度栄光セミナー<br>第三回「総合的な学習」における課題解決学習       | 課題解決学習とは?アクティビティを具体的な地域の課題解決に位置づけ、社会的行動の指導までを行いました。                         | 11 |
| LB12-30 | 2002年度栄光セミナー<br>第四回「総合的な学習」のコーディネーション能力を高める | 総合的な学習のコーディネーターはコミュニティのプロセス・ファシリテーター。ビジョンを持ってプロセス思考、システム思考で進めていこう!          | 9  |
| LB12-31 | 高校生と進めた授業実践<br>国際理解～未来につなげるメッセージ            | 竹台高校02年度2・3学期の授業実践記録。地球規模の課題と日々の生活とのつながり、個々人の課題意識にどう取り組んでいくかを考えました。         | 16 |
| LB12-32 | 市民と行政のパートナーシップをすすめよう<br>足立区の公園活用推進より        | 住民の参加、市民と行政との協働の形をつくるプロセスの追求。参加型で行うまちづくりを、足立区「公園の管理運営に関する調査」より考える。          | 6  |
| LB12-33 | 子どもと自然と公園で遊ぼう!<br>足立区の公園活用実践より              | 自分の責任で自由に遊ぶことを基本にした公園での遊び方のいろいろ。東京都足立区の公園活用推進事業より区民の方々のアイデアを紹介。             | 6  |
| LB12-34 | 人と文化の多様性と普遍性<br>国際交流館パネルトークシリーズ             | 「アジアの祝祭」「世界の家族」のテーマで留学生をリソースパーソンに行った参加型パネルトーク6回の記録。国際理解の授業のアイデアに。           | 7  |
| LB12-35 | 受託研修記録<br>人権教育推進の行動計画づくり一人ひとりが町のアンテナ        | 住民参加でつくる「人権教育のための国連10年」行動計画。さまざまな行動計画づくりに応用できます。                            | 8  |
| LB12-36 | 受託研修記録<br>フィールドの魅力アップ&プログラムづくりワークショップ       | ファシリテーターのスキルや参加者を引き付けるための工夫など、みんなでフィールドを歩きたくないような視点やノウハウがいっぱい!              | 10 |
| LB12-37 | 受託研修記録<br>秋田グローバルセミナー「対立は悪くない」              | 対立の解決のスキルは人間関係や集団間の個別事例に役立つだけではなく、社会を変革するための民主的スキルです。                       | 8  |

|         |   |   |    |  |
|---------|---|---|----|--|
| LB12-38 | 受託研修記録<br>みどりの街づくり -中学生ワークショップ-               | 三島市「緑の基本計画」策定プロセスの一環。環境の視点を持ったまち歩き、中学生ならではの斬新な改善提案に取り組んだ概要を紹介。  | 2  |  |
| LB12-39 | ERIC運営会議in盛岡の記録 教育の課題を考える                     | 03年1月開催の運営会議・ワークショップの記録。学校教育・教員養成の課題を考えた。ワークショップファシリテーターの課題も見えた。  | 6  |  |
| LB12-40 | プロセスファシリテーター 養成のためのモデルプログラム                   | コミュニティの課題解決や望ましいビジョンへのプロセスを、全体的な視点で進めるファシリテーターを要請する。モデルプログラム。   | 6  |  |
| LB13-1  | しがまっこ 溶けた                                     | "人は人と出会うことで、その人を認められるようになる。そんなことに気づかされるハンセン氏病患者の一枚の写真と詩。さらに「心の氷」を溶かすような交流とは何かの指針へ発展。"                                     | 4  |  |
| LB13-2  | 戦争-引き裂かれた家族                                   | "じゃんけんという簡単な勝ち負けで、戦争に負けるということ、その結果家族がばらばらになっていくことを追体験する。からだを動かすと心が動く。"  | 2  |  |
| LB13-3  | なんでいじめたらあかんの？                                 | "いじめた子どもにどんな風に指導しようか。そんな簡単なことでも、何人かでロールプレイをしたり、アイデアを共有できれば、楽になる。気軽にやろう"   | 1  |  |
| LB13-4  | ある村の枝豆騒動                                      | "「風が吹けば…」日本の消費者の動向に左右される途上国の農民のドタバタを寸劇にして追体験。まずは意識化することが大事、共感的理解を目指す。"  | 5  |  |
| LB13-5  | 「ひと事ですか」？暴力                                   | "誰の心にもひそむ「暴力」。自分を見つめ、受け入れ、そして心の扱い方に慣れていくしかない。だからこそ、何度も何度も、そして色々な角度から、自分に気づいていこう。"   | 2  |  |
| LB13-6  | 公正さとしての正義                                     | 行政は社会に「正義」を保証するためにある。教育は「社会的有利性の再配分機能」を担っている。そんなことを共に気づき考えるためのアクティビティ   | 4  |  |
| LB13-7  | 地球・共同体に生きる「人間とは？」                             | "さまざまな立体的地球、世界地図、テーマ地図、『地球家族』など手にとれるものを観察しながら、自分自身の中の間いや「人間とは？」に静かに向き合う。教員研修にもおすすめ。"                                      | 4  |  |
| LB13-8  | 集団の中の葛藤・対立の解決ロールプレイ                           | "人間静止画、わたしメッセージ・傾聴を組み合わせた応用編。クラスの人間関係のねじれ、セクシュアル・ハラスメント、野宿者等の問題の事例を紹介。"   | 4  |  |
| LB13-9  | 本トのインタビュー                                     | "一人ひとりが本を読んでも、内容を共有しなければ、読書が共通基盤の形成につながらない。簡単に、読み、共有するためのアイデア。"   | 2  |  |
| LB13-10 | 日本型コンフリクト再考                                   | 『対立から学ぼう』を進化させ、ほんとうに日本社会でも活用できるものとするのに貢献してきた「日本型コンフリクト」という概念。さらに迫るためのアクティビティの工夫の数々。                                       | 2  |  |
| LB13-11 | ゲストを呼ぶ際のガイドラインをつくらう<br>総合学習をよりよい内容にするために      | 総合学習において、ゲストを生かした内容づくりは課題になっています。その課題にどう取り組むかを7つの「鍵となる質問」にまとめました。これで確実に総合学習の質は高まります！                                      | 6  |  |
| LB13-12 | アイスブレイキングのアクティビティいろいろ                         | アイスブレイキングに活用できるアクティビティをワークショップの各段階で使えるよう、自己紹介、からだほぐし、グループ変え編に分類   | 4  |  |
| LB13-13 | 「ストーリーライン」でつくらう！<br>参加型プログラム作りの鍵              | 複数のアクティビティをストーリーにのせて展開させる参加型学習プログラム作りに新たな視点が加わりました。授業案作りにも応用可能。   | 5  |  |
| LB13-14 | 組織運営を参加型プロジェクトにしよう！                           | 運営のための全体会議は、ただの定例会議ではない！組織運営に「参加型プロジェクト」としての視点を導入することで見えてくる、会議のあり方・進め方を、ERICの実践から紹介します                                    | 12 |  |
| LB13-15 | 参加型でおこなう合意形成の方法いろいろ                           | チームでものごとを進める際にしばしば起こる、合意が不十分なままの決定や、討議内容の不鮮明さを解消。シンプルで有効な方法を紹介  | 4  |  |
| LB13-16 | フューチャー会議の活用方法<br>コミュニティの行動計画づくりを進める           | 組織や地域の行動計画づくりに、フューチャーサーチ会議の構造を活用しよう。ビジョン、コミュニティ意識を持って、プロセス思考で社会形成を進めるファシリテーターへ。   | 10 |  |
| LB13-17 | PRA（主体的参加地域評価法）活用事例集<br>コミュニティと共に課題を取り組もう     | 課題に関わるより多くの人とダイナミックに分析し、計画を進めていくための方法論を様々な場面で活用した事例集。   | 7  |  |
| LB13-18 | 『参加型で伝える12のものの見方・考え方』活用事例集                    | ERICの『参加型で伝える12のものの見方・考え方』の補遺版。研修の中で扱ったビジュアルな活用事例つき。  | 16 |  |
| LB13-19 | フォトランゲージ・ガイドブック<br>『地球家族フォトランゲージ版』ガイドブック（改訂版） | 『地球家族・フォトランゲージ版』ガイドブックをリニューアル。『地球家族』の使い方に加え「フォトランゲージ」一般についての解説、身近にある写真を使ったアクティビティづくりのヒントなども収録。※今後「地球家族」には、この改訂版がセットになります。 | 20 |  |

|         |  |  |    |  |
|---------|--|--|----|--|
| LB13-20 | ERIC主催研修2003<br>①「国際理解教育基礎講座」                                      | 人間理解に基づいた国際理解教育を実践するための、プログラムファシリテーター養成講座の研修報告。  | 10 |  |
| LB13-21 | ERIC主催研修2003<br>②「木と学ぼう (PLT)ファシリテーター養成講座」                         | 「エコロジカルスキル」の育成を目指す環境教育プログラムの作成を、アメリカの環境教育プログラムPLT (Project Learning Tree)を用い、二日間にわたって検討した主催研修の成果報告         | 9  |  |
| LB13-22 | 高校生と進めた授業実践<br>国際理解-人類と戦争について考えよう                                  | なぜ戦争が起こるのか？イラク戦争を例に、高校生たちが自らの問いを追求しました。高校の先生とERICスタッフのチームで取り組んだ竹台高校03年度1学期の授業実践記録。                         | 15 |  |
| LB13-23 | 国際交流館パネルトークシリーズ<br>①わたしの町再発見-コミュニティ文化を築こう                          | 留学生をリソースパーソンに行った参加型パネルトークの内容を授業でも使える教材に。第1回はコミュニティで人が生きるのに、そして育つのに必要な要素を考えました。展開例、ワークシート、成果物のイメージ、参考資料等で構成 | 4  |  |
| LB13-24 | 国際交流館パネルトークシリーズ<br>②コミュニティに「温かさ」を                                  | よく知らないコミュニティに入っていきときに感じるバリアの種類やその原因を考え、バリアを低くしてゆく手だてを考えました。  | 6  |  |
| LB13-25 | 受託研修記録 発達段階別プログラム作り  | 群馬県の小・中・高、社会教育主事と共に参加型人権教育のプログラム作り10時間研修の報告。発達段階に応じた課題を共有・分析することから始まり、実践のための行動計画まで。                        | 8  |  |
| LB13-26 | 受託研修記録「教えない」ファシリテーター養成講座   | ファシリテーターは、「落としどころ」に誘導しているのではないか。「教えているのかいないのか」そんな、ファシリテーターとは何かの疑問に答える2日間研修。教えてあげない。                        | 3  |  |
| LB13-27 | 受託研修記録<br>わたしから始まる持続可能な社会～「異議申し立て」から「立場の違いを活かす協働の体現」に向けて～          | 環境保全活動・環境教育推進法制定後、初の意見交換会の計画→実施→評価→今後に向けてのプロセスとポイントを紹介。意見交換会では多様なセクターが法の活用の可能性等を検討した                       | 6  |  |
| LB13-28 | ワークショップ・ワークショップ<br>地域の持続可能な行動計画への参加を考える<br>～神奈川の新たなアジェンダ案を"料理"しよう～ | 「新アジェンダ21かながわ」策定プロセスにおいて、このワークショップでの気づきを一般意見応募に結びつけるプロセスの試み。   | 8  |  |
| LB13-29 | ワークショップ・ワークショップ テンジン   | エベレスト登頂から50年。非ヨーロッパ人の側から語られるものは何か。異文化との接触の分析から、多文化主義という概念に取り込まれている自分たちに気づいたワークショップ報告。                      | 4  |  |
| LB13-30 | ワークショップ・ワークショップ<br>評価の「てこ」を考える                                     | 一人ひとりやコミュニティの可能性の発揮につながる評価の「てこ」を考えました。「何のために評価するのか」という問いを参加型で考えるワークショップの記録。                                | 5  |  |
| LB13-31 | ワークショップ・ワークショップ 高校生の留学体験   | 30年前の高校での交換留学体験をふりかえり、その教育的意義を評価した対談の記録。対談者が国際協力コンサルタントと国際理解教育指導者というのも読みどころだ。                              | 4  |  |
| LB14-1  | グローバル・パースペクティブズ 100<br>もっと知りたい、地球のためにできること                         | 100人規模のシミュレーションゲーム。NGO等の資料を活用し、人類共通の課題解決のための主体的行動、協力の大切さを学ぶ。総合学習をはじめ職員研修でも応用可                              | 4  |  |
| LB14-2  | 論理トレーニングワークシート   | 接続詞の一覧表、12のものの見方考え方のリストを用いて物事の検討や話し合いをしよう。多様な視点から論理的な思考をトレーニングする。  | 4  |  |
| LB14-3  | 町内かんたんトランセクト   | 持続可能な町づくりのための、今とありたい姿を分かち合う。愛着のある町をみんなと共につくる導入にふさわしい活動。  | 3  |  |
| LB14-4  | 組織の人権ガイドライン  | 組織の課題解決スキルは「参加の文化」づくりに欠かせない。問題が起きた時の対応を考えながら、ガイドラインを共有する、組織的スキルアップの活動。                                     | 2  |  |
| LB14-5  | ことばの共有<br>ワークショップのはじめに   | 安心できる話し合いの壁になる「聞き慣れない言葉」。ひっきりんありそうな言葉やテーマにとって大切なキーワードを参加型で共有するアイデアいろいろ。                                    | 3  |  |
| LB14-6  | 走向未来<br>ともに実現したい未来に向けて   | ERICのこれまでの指導者養成事業のふりかえり分析と04年度の提案「鍵となる方針」にもとづいた行動計画。指導者養成事業推進のご参考に。  | 20 |  |
| LB14-7  | PLTファシリテーター養成講座の進め方  | 現在米国PLTで実践されているファシリテーター養成講座を紹介。理論的背景である「構成主義」、指導者の応用力を高める方法論等ヒントに溢れた内容。                                    | 8  |  |
| LB14-8  | 戦時性暴力をなくすには  | 人権侵害の訴えにどのように共感し、行動につなげるのか？「戦時性暴力」についての様々な分析の枠組みを通して応用力のある人権の学び方を学ぶ。                                       | 4  |  |
| LB14-9  | 『ビッグイシュー』から『地球憲章まで』  | ある組織が行動規範をもつのはなぜだろう？学校や家庭、雑誌、NPOや世界にむけたものまで、共同体が求める共通認識や理解することの意味を考える。                                     | 4  |  |
| LB14-10 | アクティビティ『国産はじめて物語り』<br>持続可能な雇用                                      | 「プロジェクトX」「ガイアの夜明け」に描かれるものづくりの物語。時代を表す製品を取り上げた本『国産はじめて物語り』のリストから社会の変化とこれからの企業と労働のあり方等を考える。                  | 3  |  |



|         |  |   |    |  |
|---------|--|---|----|--|
| LB14-11 | 米国「はじめて」物語   | 1850年代からの米国の技術革新の歴史をもとに19世紀以降の時代を技術革新の面から概観し、米国の影響力、科学技術社会のあり方を考える。           | 2  |  |
| LB14-12 | 「持続可能な雇用」のあるべき姿とは？   | 「雇用」は社会にも個人にも重要な要素。雇用が安定し発展するために社会はどんな支援を行い、個人は何を身につけるべきか？                    | 8  |  |
| LB14-13 | つつい対語  | 「子どもと大人」「女と男」など対語の単純で分りやすいカテゴリには落とし穴も。『人権用語辞典』を参考にことばとパワーに関する感覚をみがく。          | 2  |  |
| LB14-14 | おいおいネェチャン -未来型コミュニケーション  | 対等で開かれたコミュニケーションをめざしてはいるものの、時折出会う“トホホ”な状況。日本社会の見えないパワーに対する感覚をみがく。             | 2  |  |
| LB14-15 | 「バカの壁」ワークシート   | ベストセラーのメッセージを教育の場での経験と重ねて共有しよう。『意味を見い出す場は私たちの共同体の中にある』のだから。                   | 2  |  |
| LB14-16 | スキル・トレーニングの功罪  | 1970年以降のさまざまな課題や対象者に向けたスキル・トレーニング(ST)を振り返り、これからの課題に応じたSTの発展について考える。           | 4  |  |
| LB14-17 | ファミリー・マターズ -異文化引越し編  | 異文化に移住する家族それぞれの変化や成長を通して家族コミュニティと受け入れ側社会の問題点や必要なサポートについて考える。                  | 4  |  |
| LB14-18 | 公共的概念とコミュニティ   | 私たちは学びを通して互いに何を共有したいのだろう。国際的な指針、日本の課題から共有すべき概念と、それを持つことの意味を考える。               | 4  |  |
| LB14-19 | ESD概念の検討- 持続可能性のための教育へ   | ヨハネスブルク・サミットで日本政府が提案した「ESDの10年」が2005年に始まる。さまざまな領域での教育が積み上げた概念を基にESDの目標を考える。   | 4  |  |
| LB14-20 | 〇〇のための話し合いのルールづくり  | 組織のコミュニケーションのルールづくりを自分たちで行うことは、主体的な運営の規範の確認でもある。ファシリテーター必携のアクティビティ。           | 3  |  |
| LB14-21 | これって「参加型」？   | ことばも実践も広がった「参加型」学習の共通のポイントは何か？場や入り口は様々でも「参加の文化」を進めたい人なら一度はともに考えたい。            | 4  |  |
| LB14-22 | 「ワークショップ」の分類   | 「ワークショップでやろう」と言った時、何を意味しているでしょう？課題解決の段階や意見聴取の手法・枠組みで主体的な参加の質を問う活。             | 5  |  |
| LB14-23 | ごみは何より減らすこと  | 日本全国の地域がかかえるごみ問題。一般廃棄物を対象の「ごみの減量」の調査、行動計画、モニター活動の中で環境の共通理解を深める。               | 8  |  |
| LB14-24 | 日本近代精神史-文庫7  | 日本の近代に新たな価値を求めて生きた人々の精神とともにふれる活動。岩波文庫の7冊から「本とのインタビュー」で展開する。                   | 2  |  |
| LB14-25 | イラク人質事件について話し合う  | 衝撃的な事件が起きた時、身近な人ときちんと、率直に話し合えたら…。マスメディアを読み解き、気づきを未来のための具体的な示唆とする為の活動。         | 4  |  |
| LB14-26 | ナヌムの家で考える 「慰安婦」問題  | 過去を共有し「いいもの」や「いい関係」を積み上げて行くにはどうしたらいいの？基本的人権をキーワードに共感的理解から共生社会を目指す             | 4  |  |
| LB14-27 | ERIC主催研修2003<br>③「対立から学ぼう」カリキュラムと教え方講座                               | 「対立の解決」のスキルを学び、それを生涯にわたる学習のさまざまな場面にどのように位置付けていけるかを考えた研修の報告。                   | 10 |  |
| LB14-28 | ERIC主催研修2003<br>④「人権教育ファシリテーター」養成講座                                  | 人権教育でファシリテーターとしてともに考えたいことは何だろうか？参加者とともに構成を考え、参加者自身がファシリテーターする実践的講座。           | 10 |  |
| LB14-29 | ERIC主催研修2003<br>⑤「持続可能な開発/社会を目指して」<br>プロセス・ファシリテーター 養成講座 in 茅ヶ崎      | PRA（主体的参加地域評価法）を中心に、地域の人々とともに学びあう3日間。地域で実施するプロセス・ファシリテーターの実践的養成講座のモデル・プログラム。  | 10 |  |
| LB14-30 | ERIC主催研修2003<br>⑥「TEST (Trainer's Effective Skill Training) 教育力向上講座」 | 教育や社会をつくっていくプロデューサーとして、より質の高い教育をつくりだす力。現状改善のためのプロセスをつくりだすことを目指した3日間の記録。       | 12 |  |
| LB14-31 | 主催研修実践編記録<br>ファシリテーター養成講座実践編 in 熊本<br>地域から考える世界のこと                   | ERICが熊本の協力者と共に開催。各セッションを参加者がファシリテートし、互いに学び合う実践的講座。あなたの町でも開催しませんか？             | 6  |  |
| LB14-32 | 主催研修実践編記録<br>協働でつくるファシリテーター養成講座 in 山口                                | ERICと他団体の協力で行ったファシリテーター養成講座。プログラムづくりをおこなうプログラム、実行委員会形式の実施体制から見たPDSのサイクルを紹介。   | 6  |  |
| LB14-33 | 受託事業記録 市民参加でつくる協働ガイドライン<br>足立区公園活用推進事業より                             | 行政との協働、市民参加で公園活用推進を行う事業。03年度は市民の自主的な組織が発足し、協働のガイドラインも作成。コミュニティでの事業推進プロセスを学ぼう。 | 10 |  |
| LB14-34 | 高校生と進めた授業実践<br>国際理解 -平和の構築に向けて                                       | 「目に見えない暴力」について学び、「平和の構築に向けての課題」への取り組みを考えた竹台高校03年度2学期・3学期の授業実践記録。              | 20 |  |

|         |  |  |   |
|---------|--|--|---|
| LB14-35 | 受託事業記録<br>企業に「参加の文化・風土」を育む 持続可能な社会に向けて         | 持続可能な社会における企業とは？持続可能な雇用とは？<br>(株) 興安計装と取り組む、企業における参加の文化・風土づくりのワークショップ。                                 | 5 |
| LB14-36 | 受託研修記録 国際交流館パネルトークシリーズ<br>③いろいろな「ことば」          | アジアの多言語状況を共有し、各コミュニティの言葉に関する課題の異なる点や共通点について話しました。  | 5 |
| LB14-37 | 受託研修記録 国際交流館パネルトークシリーズ<br>④「わたし」に出会おう          | 個人がコミュニティから得ているもの、コミュニティに対する責任と貢献について考え、個々人の中にも多層的な価値を持っている人たちがコミュニティを形成するとき大切にしたいことを話しました。            | 4 |
| LB14-38 | 受託研修記録 国際交流館パネルトークシリーズ<br>⑤「わたし」を育てる           | 自信はなぜ大切？自分自身の自信を育てたのは何？そして未来世代の自信をのぼしてゆくためにどんなことができるのか。「自信」をキーワードに話しました。                               | 6 |
| LB14-39 | 受託研修記録 国際交流館パネルトークシリーズ<br>⑥「地球のなかま」の未来をデザインしよう | 子どものころの自分にとってどんな人が「偉人」だったかを共有し、豊かな多文化世界の未来に向けて、伝えてゆきたい「偉人」像について話しました。                                  | 4 |
| LB14-40 | 受託研修記録 環境報告書がつながりコミュニケーション<br>市民の視点で 読む・問う・活かす | 企業の温暖化防止対策に焦点を当て、環境報告書活用可能性や提案を考えるワークショップ。ファシリテーターのためのワンポイント、応用案などアイデアも満載。                             | 6 |
| LB14-41 | 霞ヶ浦環境教育セミナー                                    | 2003年8月に行われた霞ヶ浦研究会主催による環境教育セミナーの記録。社会の中で出会う多様な問題への解決能力を養う。   | 4 |
| LB15-1  | 戦争の悪循環について考える                                  | "第二次世界大戦が始まった年に描かれた絵本を出発点に、戦争の悪循環を考え、そのジレンマを断ち切るためにできることは何かを考える。"                                      | 3 |
| LB15-2  | PLTsecondary module-RISKを例に                    | "PLT中等教育向けモジュールの概要と、その中の1つ、モジュール「リスク」の理数系教科との関連を紹介。日常の意思決定に働く論理的思考を意識化し、地球規模の課題への応用するカリキュラム。"          | 3 |
| LB15-3  | 日本人って誰？  | "わたしたちは普段、何によって他者を〇〇人であると考えているのでしょうか。また、それを決めるのは誰でしょうか。2003年度TESTで開発したアクティビティ。"                        | 2 |
| LB15-4  | 参加型アクティビティをつくろう！                               | "伝えたいことから、または身近な素材から、アクティビティをつくるためのいくつかのアイデア。アクティビティ開発能力を高めよう。"  | 6 |
| LB15-5  | 63億人ってどのくらい？                                   | 世界の人口が63億人っていわれてもなかなかピンとこない。数を使ったいろいろなアイデアで地球上に暮らす人間を実感しよう。  | 2 |
| LB15-6  | ウーリーウェブの活用法                                    | 毛糸を使って因果関係や相互関係を考えるウーリーウェブの手法。いくつかのアクティビティをもとにどのような活用ができるか考える。   | 4 |
| LB15-7  | 経験学習の4段階ワークシート                                 | "気づきのアクティビティがもっている力を最大限に引き出すために、経験学習の4段階を踏んで丁寧にすすめよう。気づきアクティビティを実践したい人におすすめ。"                          | 4 |
| LB15-8  | スキルトレーニングの心がけのチェックリストづくり                       | "持続可能性を実現するためのスキルトレーニングでファシリテーターが心がけるポイント。ファシリテーターの資質やアクティビティ、プログラムの質の向上について、ESDの7つの原則で常にチェックします。"     | 4 |
| LB15-9  | "あなたの行動の「なぜ、どうして、そうしたの？」を探る"                   | "「事実、感情、価値観、決断(ORID)」4種類の問い。課題解決の場面でお互いの共通理解づくりや、対立の場面の自己分析に活用できる問いかけの枠組み。"                            | 4 |
| LB15-10 | フェミニズムの空白 解放を越えて                               | "さまざまな「解放運動」は人権保障のための社会変革を求めた。その後の社会のあり方と、女性の「自立」へのメッセージや支援を検証する。バックラッシュに立ち向かうための視点と人権教育のこれからのあり方を探る。" | 4 |
| LB15-11 | 人権アクティビティづくり                                   | "人権教育の「伝えたいこと」を参加型アクティビティでどう伝えるか。10の素材をもとにグループで考え、ファシリテーションを実践する。"                                     | 4 |
| LB15-12 | ある属性の有利・不利                                     | "自分の属性について、そのパワーを意識するのはむずかしい。マイノリティの条件と有利性を問うアクティビティ。大分県のワークショップで開発された。"                               | 1 |
| LB15-13 | ファシリテーター養成に活かす記録写真                             | ファシリテーター研修の記録写真をファシリテーターのネットワーク育成に活用するためのアクティビティ。報告会やフォトランゲージのアイデア。                                    | 1 |
| LB15-14 | あなたはどの人？                                       | "人権教育の行動化の1つ「差別を見過ごさない」について考える。差別に対する5つの態度、7つの立場を使いながら、自分と社会の課題を考える。"                                  | 4 |
| LB15-15 | プログラムづくりの進め方                                   | "参加型学習のプログラムをつくる時、伝えたい概念の「流れ」と展開を「つなぐ」ためのポイント。"  | 2 |
| LB15-16 | 文字を必要としない社会                                    | "文字を持った社会と「無文字社会」が出会うとき、どのような配慮が必要だろう。多文化の出会いをきっかけに文化や教育を「文字」を通して考える。"                                 | 1 |

|         |  |  |    |  |
|---------|--|--|----|--|
| LB15-17 | ERIC主催研修2004<br>①「国際理解」ファシリテーター養成講座    | "04年度「国際理解」ファシリテーター養成講座の記録。参加者が講座のファシリテーターをつとめる「実践型」講座で、アクティビティづくりを行った。"                           | 8  |  |
| LB15-18 | ERIC主催研修2004<br>②「環境教育」ファシリテーター養成講座    | "環境教育/PLTファシリテーター養成講座3日間のプログラム記録。「アクティビティセッション(14-17参照)」や「補助線」でアクティビティ開発力の向上を目指し、フィールドプログラムをつくった。" | 10 |  |
| LB15-19 | 主催研修実践編記録 TEST in 大阪                   | "04年3月に行われた主催事業TEST(LB14-30)と同じ構造で、5月に大阪で実施した3日間の記録。公共的概念と行動を育てる人材育成を目指すプログラム。"                    | 8  |  |
| LB15-20 | 受託事業記録/千葉女性センター<br>建設的な話し合いによるコミュニティ育て | "「参加してよかった」と思える話し合いのために、準備から終了後までのプロセスで必要な工夫を学び、一人ひとりの参加のスキルを伸ばすプログラム。"                            | 3  |  |
| LB15-21 | 受託事業記録 コミュニティ・ビジョン in 安塚               | "地域環境総合計画策定に関わる市民、職員、関係者が、ともに学び地域の課題とビジョンを共有する2日間10時間の研修。99年実施。"                                   | 15 |  |
| LB15-22 | 受託事業記録/新任研修<br>人権尊重の第一歩は人を好きになること      | "お互いを尊重するコミュニケーションは職場内、職務にかかわる人権の基本。個人から企業コミュニティの課題を語る5時間の参加型研修プログラム。"                             | 5  |  |
| LB15-23 | 受託研修記録/社内研修 人権教育指導者育成                  | "アクティビティ体験、プログラム評価の視点(3時間)、レッスンプランの実施(ファシリテーター実践)を加えた6時間等プログラム2本を紹介。"                              | 2  |  |
| LB15-24 | 受託事業記録/社内研修 人権啓発研修 レッスン・プラン            | "人権啓発ビデオ視聴を含めて「日常生活にひそむ差別や偏見に気づく、見過ごさないで指摘できる」ための研修指導者マニュアル。"                                      | 13 |  |
| LB15-25 | 受託事業記録/事業所担当者向け研修 人権啓発推進委員研修           | "人権尊重を学ぶ参加型手法が、企業の日常業務にも応用力のあるものであることを学ぶ5時間のプログラム。"  | 3  |  |
| LB15-26 | 受託事業記録<br>コミュニティと参加 プロセスファシリテーターへの道    | ERICがこれまで学んだ参加型の方法を総合して開発した「コミュニティ・ビジョン」を伝える3日間9セッション(18時間)のカリキュラム。コミュニティの参加を促進する担い手への提案。          | 10 |  |
| LB15-27 | 講義記録/西武文理大学 英語基礎演習10.100.1000          | 大学1年生必修「英語基礎演習」11回のプログラムとワークシート。英語の実力や期待がさまざまな対象から「学ぶ姿勢」を引き出す                                      | 6  |  |
| LB15-28 | 講義記録/恵泉女学園大学 国際関係論特講 平和教育実践00          | "国際社会文化学科の3-4年生向けに開講された12回の講義2000年度の記録。多くのアクティビティからグローバルな不公正、課題を掴む"                                | 9  |  |
| LB15-29 | 講義記録/恵泉女学園大学 国際関係論特講 平和教育実践01          | 国際社会文化学科の3-4年生向けに開講された12回の講義2001年度の記録。国際社会と平和について学ぶ参加型の展開。   | 9  |  |
| LB15-30 | 講義記録/恵泉女学園大学 国際関係論特講 平和教育実践02          | "国際社会文化学科の3-4年生向けに開講された12回の講義2002年度の記録。「開発、女性、暴力」の課題に迫り、平和の全体像を探る。"                                | 8  |  |
| LB15-31 | 講義記録/恵泉女学園大学 国際関係論特講 平和教育実践03          | 国際社会文化学科の3-4年生向けに開講された12回の講義2003年度の記録。教育やコミュニケーションのあり方から平和を学ぶ実践へつなぐ。                               | 8  |  |
| LB15-32 | 講義記録/恵泉女学園大学 国際関係論特講 平和教育実践04          | 国際社会文化学科の3-4年生向けに開講された12回の講義2004年度の記録。   | 10 |  |
| LB16-1  | 「羅生門的アプローチ」で対立から学ぼう                    | コミュニティの構成員がかかわった具体的な対立・紛争の事例を、匿名で、コミュニティの共通の課題として扱い全員の学びとするアクティビティ。                                | 2  |  |
| LB16-2  | ノーベル平和賞から「平和」を考える                      | ノーベル平和賞は1901年の第1回からこれまでに約110の個人と団体が受賞しています。受賞者・団体の活動や受賞理由の多様さから「平和」について考えます。                       | 5  |  |
| LB16-3  | かんたん人権劇                                | 障がいを持った人がスポーツクラブへの入会を断られました。どこに問題があるのでしょうか。ロールプレイを通して考えます。   | 4  |  |
| LB16-4  | 進化論おもしろデータ                             | いま生きていることのわくわくを子どもたちと共有するためのデータと基本文献の紹介。   | 2  |  |
| LB16-5  | ジャパニーズ・オンリー                            | 小樽温泉入浴拒否問題を素材に、排他主義を起す背景とそれを越えるためのわたしたちの行動を考えたプログラム。   | 3  |  |
| LB16-6  | 平和の文化を創ろう                              | 日常使っている「言葉」や「文化」をふりかえってみませんか?『くらしと教育をつなぐWe』の記事等を参考に、平和の文化を創るためにできることを考えます。                         | 8  |  |
| LB16-7  | チェックリストチェックリスト-評価と点検                   | 自分のふりかえりや、参加型学習の導入にも気軽に使われるチェックリスト。それらのチェックリストは適切なのでしょうか? 評価・点検する指針を作ります。                          | 3  |  |
| LB16-8  | 親と子の物語                                 | 人間関係は、お互いの行動とそれに対する解釈による物語として成り立っています。「親と子」の間にあるストーリーに光を当ててみましょう。                                  | 4  |  |
| LB16-9  | 50になったら楽しよう                            | 職業女性のライフ・サイクルと発達課題を考え、「楽する」ための手立てを手に入れるためのプログラム。   | 4  |  |

|         |   |   |    |  |
|---------|---|---|----|--|
| LB16-10 | 問題な日本語  | 変化の途上にある表現を「乱れ」と切り捨てるのではなく、日本語の吸収能力に驚嘆しながら、よりよい表現を生み出す力を育てましょう。                                   | 2  |  |
| LB16-11 | ていねい語が拓く日本の未来   | 日常のコミュニケーションを、階級遵守語、ていねい語という視点で分析したうえで、「未来型コミュニケーション」のありかたを考えます。                                  | 4  |  |
| LB16-12 | 「事実・感情・価値観の冰山」の多側面分析  | 「事実・感情・価値観の冰山」による対立の自己分析の発展。冰山を複数の側面から分析し、わたしが本当に満たされたいことを明らかにします。                                | 2  |  |
| LB16-13 | 紛争の超越から和解へ<br>トランセンド法と分析的手法で考えよう  | ガルトゥング氏が提唱する「トランセンド（超越）法」のプロセスをERICが活用する分析の手法を使ってすすめます。紛争をどのように転換していくのか、ともに考えましょう。                | 4  |  |
| LB16-14 | 音感フォニックス  | 大学での英会話の授業実践から、フォニックスの指導部分を紹介。どのような英語のレベルの学生でも習熟を高めてゆくことができるプログラム。                                | 4  |  |
| LB16-15 | 授業をどうする？  | カリフォルニア大学のアイデア集を参考に、自分自身の、さらに学校全体の授業改革に取り組みましょう。  | 2  |  |
| LB16-16 | 「正義感の発達」と教育   | 普遍主義的正義感（グローバルジャスティス）獲得の課題と教育的手立ての段階化を考えるプログラム。   | 3  |  |
| LB16-17 | 半構造化で進める共通基盤づくり   | 半構造化とは、先行知見などによって構造化できる部分を、思考を進めるための補助線として活用すること。最近の実践例を紹介。                                       | 4  |  |
| LB16-18 | 参加型学習の原則  | 参加型学習の理念やあるべき姿は、習得と、生み出す力の両方が求められます。仲間とともに原則を生み出す力を育てることに焦点を当てたプログラム。                             | 2  |  |
| LB16-19 | 参加型エンパワーメント調査の方法論   | ERICがこれまで取り組んできた調査事業は、収奪的に情報収集するものでなく、調査に関わる全員がエンパワーされることを目指したものです。参加型エンパワーメント調査の事例からエッセンスを紹介します。 | 10 |  |
| LB16-20 | 04ESDカレッジ人権講座参加者の「お勤めのこの本」  | ファシリテーターの学びあいのために参加者全員でだしあった「わたしのお勤めのこの本」60冊。現代社会における人権教育の課題の広がりや伝えています。                          | 3  |  |
| LB16-21 | 循環型社会を目指して ごみ関連資料データ集   | わたしたちがどのような目標を持って、どのくらいのごみを、どのように削減していけばよいのでしょうか。学校の授業やまちづくりで活用できるデータの紹介。                         | 10 |  |
| LB16-22 | 紛争ワーカーのためのエクササイズ  | トランセンド法によるトレーニングマニュアル50ユニット中、簡易バージョン15ユニットのエクササイズを紹介。紛争ワーカーのトレーニングの大筋がわかる資料。                      | 7  |  |
| LB16-23 | 2004ESDfc.byERIC<br>③「対立の扱い方」講座<br>「対立」から「対話」へレッツコミュニケーション！               | 自分自身の対立や感情を扱うことを通して、対立の扱い方の概念の手法を理解し、各現場の対象に応じた指導法を学んだ2日間の記録。                                     | 8  |  |
| LB16-24 | 2004ESDfc.byERIC<br>④ ESDのための「平和」講座<br>平和的に社会を変えて生きるには                    | これまで実践されてきた平和的な社会変革の手法を体験し、これからの平和教育とそれをすすめるファシリテーターのありかたを考えました。                                  | 12 |  |
| LB16-25 | 2004ESDfc.byERIC<br>⑤ ESDのための「人権」講座<br>人権を持続可能性の礎に                        | 新たな人権教育の課題についてのアクティビティの開発、人権教育指導者としての自己習熟に焦点を当てた2日間の記録。   | 8  |  |
| LB16-26 | 2004ESDfc.byERIC<br>⑥ ESDのための「社会開発」講座<br>参加する・つくる持続可能なコミュニティ              | 東京都北区において参加型地域調査を実施し、ESDの推進と地域の教育課題を考えた講座。近刊「参加型で進める5つのステップ」による3日間の構造。                            | 9  |  |
| LB16-27 | 2004ESDfc.byERIC<br>⑦「教育力向上」講座 -TEST (Trainers Effective Skills Training) | 教育力向上のために、伝えたいことを物語る、半構造的に伝える、人間理解に基づいた教育的働きかけ、それらができるからだになるための実践の3日間の記録。                         | 10 |  |
| LB16-28 | 2004ESDfc.講座in沖縄with ERIC<br>PRAファシリテーター養成講座-住民参加型地域をつくろう                 | 沖縄県東村で、エコツーリズムを切り口に、参加型地域調査を実施し、地域住民が主体となり、参加を広げる地域づくりのプロセスを作りました。                                | 24 |  |
| LB16-29 | 2004ESDfc.講座in大分with ERIC<br>わたし・あなた・みんなのためのスキルトレーニング講座                   | 対立の扱い方を中心としたスキルの指導法を体験し、学びました。地域の指導者とともに取り組みを進めていくための共通基盤づくりとなった講座です。                             | 9  |  |
| LB16-30 | 「ESDファシリテーターズ・カレッジ 講座by ERIC」の2004年度の評価と点検                                | 2004年度より「ESDファシリテーターズカレッジ」と位置づけたERICの主催講座。自己ふりかえり的な「評価」と第三者による「点検」を行いました。                         | 8  |  |
| LB16-31 | ERICファシリテーターターターハンドブック 2004   | 2004年度のカレッジ講座 byERICで、ERICテキストの補完情報として提供したハンドブックのコンテンツをセットにまとめました。                                | 20 |  |
| LB16-32 | 受託研修記録 基目寺町まちづくり町民会議  | 循環型社会を目指し、地域のごみ削減のために開催した「まちづくり町民会議」。ワークショップや自主勉強会、住民調査などを実施し、行動計画・提言づくりをした1年間の事業記録。              | 6  |  |
| LB16-33 | 英会話 スリーインワン   | 大学における英会話の授業実践。90分を3つのパートで構造化し集中力を高める方法論の紹介。  | 2  |  |

|         |   |   |    |
|---------|---|---|----|
| LB17-1  | 無限のカテゴリの...   | 「わたしは差別していないんですけど」なんて嘘だ。特権のある側にいるから見えただけだ。こんなにもある不利になるかもしれない条件。   | 4  |
| LB17-2  | これって人権侵害？   | 「日本国籍でないのだから、区別や制限があっても仕方がない」という考えはどうか。現在日本にある区別や制限は妥当であるか、改めて考えてみましょう。   | 2  |
| LB17-3  | カウラの大脱走-点検！戦後60年の人権感覚   | 戦後60年、わたしたちの心とからだど頭はどれほど「人権感覚」が磨かれただろうか。戦争捕虜たちが追い込まれた状況で、試してみよう。  | 5  |
| LB17-4  | 災害メディア・リテラシー  | 災害時、緊急時ほど人権感覚が問われる時はない。募金やボランティアも大切だけれど、人権尊重が身につけていないと、危ないぞ。  | 4  |
| LB17-5  | 性差が制差に変わるとき   | わたしは見た、男女平等の学校を卒業した新人たちが、やすやすと「制度的な性差」に慣らされていく場面を！誰しもが体験するあの場面、こんな時。  | 4  |
| LB17-6  | ESDfc.人権教育開発プログラム   | 『人権教育ファシリテーターハンドブック』徹底活用から生まれた3本のプログラムを紹介。与えられたアクティビティに、伝えたいことをのせ、学習者の意識の流れにそって展開するという新しい試みです。                              | 4  |
| LB17-7  | カルチャー・ショック！   | 異文化に出会ったとき、わたしたちはどのようにその文化を扱うのでしょうか？文化のちがいに驚きもしますが、ちがう文化をもつ人への扱い方に驚くこともあるのです。   | 3  |
| LB17-8  | 『地球家族-ポストカード版 "People and Possesion"』<br>フォトランゲージ・ガイドブック（改訂第3版） | 『地球家族-ポストカード版』に対応したガイドブック。国や写真が一部入れ変わった30枚のポストカード版写真の使い方に加え「フォトランゲージ」一般についての解説も掲載。  | 24 |
| LB17-9  | PLT Secondary Moduleシリーズ<br>厳しい選択                               | モジュール Focus On Forest より。“森林と自分”のつながりを見つめ直し、課題解決に向けて何ができるかを考え、提案する力をつけるのがねらい。“森林”に関する新聞や雑誌の記事を利用するのが特徴。                     | 3  |
| LB17-10 | PLT Secondary Moduleシリーズ<br>森についてのあれこれ-森林とわたしたちの生活              | モジュール Focus On Forest より。わたしたちは森林から何を享受しているのでしょうか。森林の役割、わたしたちの生活との関わり、キーワードなど森林を身近に考えるきっかけになります。                            | 4  |
| LB17-11 | PLT Secondary Module シリーズ<br>エネルギー焼却炉                           | モジュール Municipal Solid Waste（廃棄物）より。新しいゴミ処理施設が自分たちの町にできたらどうする？ 環境問題や民主的な決定のプロセスや対立についてロールプレイを通して考える                          | 7  |
| LB17-12 | PLT Secondary Module シリーズ<br>森を調べる                              | モジュール Forest Ecology より。森の中の多様な生命に目を向けよう。森林官と同じような調査方法を使って木や森をもっと詳しく知ろう。森を調べよう。原題はCast of Thousands 数千の俳優。                  | 4  |
| LB17-13 | PLT Secondary Module シリーズ<br>マイマイガが教えてくれるもの                     | モジュール Forest Ecology より。マイマイガを通して、環境を守るための方法論を学ぶ。それぞれの方法の利点・欠点を話し合い、実施する方法を決定してゆくアクティビティは、説得のスキル向上に役立つ。                     | 5  |
| LB17-14 | PLT Secondary Module シリーズ<br>プラスチックのリスク分析                       | モジュール Focus on Risk より。身の回りのプラスチックに目を向け、何かを選択する際にリスク分析の視点が大切なこと、リスクを軽減のための手立てとしての法的規制について学ぶ。                                | 5  |
| LB17-15 | PLT Secondary Module シリーズ<br>緑の空間                               | モジュール Places We Live より。土地利用が示される新旧の地形図、あるいは航空写真と現地観察を通して、地域社会における「社会基盤としての緑地」の概念に気づく。地域の人口増加や開発に伴っての「社会基盤としての緑地」のありようを考える。 | 10 |
| LB17-16 | 歴史年表から学ぶ<br>ワールド・スタディーズの理念と背景                                   | 参加型学習プログラムのさきがけとなった「ワールド・スタディーズ」の成立前後の時代状況を、開発や教育に関するの出来事とメッセージとを関連づけてみることで、国際理解教育の理念的背景に気づく。                               | 4  |
| LB17-17 | 評価の墮落と落とし穴  | 評価の意義やありかたを自分自身の経験からふりかえり、コミュニティで再確認する活動。よりよい評価への点検の視点になります。  | 2  |
| LB17-18 | チーム・ワークス  | コミュニティの形成は風土づくりから。本当に効果的なチームを作り上げること、チームだからこそ効果があげられるのだということ。   | 3  |
| LB17-19 | インタビューの方法   | 取捨的な一方的に学ぶためのインタビューではなく、双方向的に発展するようなインタビューの仕方は、対等なコミュニケーションの練習でもある。   | 2  |
| LB17-20 | 仲間といっしょに学び合う「ESD持続可能な開発のための教育」                                  | ESD持続可能な開発のための教育について、地域の仲間とともに学習を進めるためのプログラム。仲間を誘って学びあうのがESDの姿なのです。   | 13 |

|         |  |  |    |  |
|---------|--|--|----|--|
| LB17-21 | 物語るからだ-ESDのための教育力向上講座                              | 頭で理解したことが、からだのできる「参加型学習」。その指導者は「伝えたいこと」を心とからだと頭全体から「物語れる」ようになることだ。                                   | 6  |  |
| LB17-22 | 教員養成課程の質の高め方-日英米比較                                 | 「高度な専門性と実践的指導力を兼ね備えた教員の養成」は、国際社会における共通の課題である。その課題に対する日英米のアプローチを比較する。                                 | 4  |  |
| LB17-23 | あなたはなれる?-差別のある社会における無力感                            | 日本社会において近代と前近代両方の学習性無力感が生み出されるメカニズムを知り、ESDの教育的指導者に民主教育の姿勢が徹底されることを求める。                               | 4  |  |
| LB17-24 | 学校全体で取り組む: Whole School Approach のための校内研修のアイデア     | 新しい教育的試みに学校全体で取り組む際の、校内研修のアイデアです。『ワールドスタディーズ』日本語版では未紹介の第3部から訳出しました。                                  | 3  |  |
| LB17-25 | 共通基盤づくり 3つの柱・7つの要素                                 | 参加者全員が安心してワークショップに参加できるよう、参加型学習プログラムの最初に行う場・風土づくりの3つの柱・7つの要素について紹介。                                  | 2  |  |
| LB17-26 | ふりかえりと評価   | さまざまなふりかえりの方法や評価の枠組みを理解し、活用することによって、次の計画やより良いネクストステップをつくり出します。ERICの研修でよく使われている方法を紹介します。              | 2  |  |
| LB17-27 | ERIC参加型学習7つのアプローチ (PAL)                            | ERICの参加型の柱を7つの数え歌風にまとめました。これからのテキストのタイトルと内容の要約でもあります。がんばるぞ   | 4  |  |
| LB17-28 | ESDfc. アクティビティコースの比較                               | 今年度新設のアクティビティコース。教育を包括する「ワールドスタディーズ」、国際理解の主要な柱、環境と人権から「木と学ぼう」「人権教育のファシリテーターを目指して」の目標と特徴を比較。          | 2  |  |
| LB17-29 | 2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>①ワールド・スタディーズ        | ERICの参加型学習への基盤となった『ワールド・スタディーズ』のテキストを使ってそのアクティビティ・プログラムを体験した2日間の記録。                                  | 7  |  |
| LB17-30 | 2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>②PLT: 木と学ぼう         | PLT (Project Learning Tree)を基本に、中等教育用に作成されているセカンダリーモジュールを素材に、日本の環境教育への応用を検討した成果の報告です。                | 10 |  |
| LB17-31 | 2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>③人権教育のファシリテーターを目指して | 「参加者の意識」の流れから「プログラム」の流れを考え、「感情の扱い方」を捉え直すことができた2日間の講座記録。『人権教育ファシリテーターハンドブック』を徹底して使用したのもおもしろい。         | 12 |  |
| LB17-32 | 2005ESDfc.byERIC チャレンジコース<br>①国際理解教育からESDへ         | アクティビティの実践・点検・評価を行い「プログラムファシリテーター」としてのスキルを高めた2日間の講座記録。「ESDとは何か」についても学びを深めました。                        | 10 |  |
| LB17-33 | 2005ESDfc.byERIC チャレンジコース<br>②環境教育                 | 指導者育成の「モデル」となる人材育成システムについてESDの観点から、日本の環境教育指導者育成について考えた3日間の講座です。                                      | 8  |  |
| LB17-34 | 2005ESDfc.with ERICTEST in 大阪<br>いっしょに考えて教育        | 2005年4月に大阪で行われた「TEST: 教育力向上講座? いっしょに考えて! 教育?」講座の記録。CD版には参加者が作成したプログラムと成果物のすべての写真があります。プリント、CDいづれかを指定 | 24 |  |
| LB17-35 | 2004ESDfc.with ERICTEST in 名古屋                     | 2005年3月に名古屋でNIED国際理解教育センターと共催で行ったESDファシリテーター養成講座「TEST: 教育力向上講座」2日間の記録。                               | 7  |  |
| LB17-36 | 英語討論04   | 西武文理大学での昨年度後期の授業の記録。「わたしを感動させるコメントを言った人には満点をあげる」いいのか点数で学習意欲を釣って?                                     | 4  |  |
| LB17-37 | これからの家庭教育支援<br>-今必要とされる支援とは                        | 04年度TEST参加者が、Propをはじめとする学んだ内容をフル活用して実践した記録   | 3  |  |
| LB18-1  | 貧しい国はなぜ貧しい?-帝国主義がもたらしたもの                           | ワールド・スタディーズの応用編。ヨーロッパと日本の帝国主義に焦点を当て、貧困の悪循環を断ち切るためにできることを考えます。  | 5  |  |
| LB18-2  | The Galaxy   | “デザインを宇宙に生きる「わたし」や「わたしたち」とつなげる大学生対象の授業案。   | 1  |  |
| LB18-3  | 地球・いのち・美意識   | 地球と人間と人間社会の理解をデザインに活かすための大学生対象の4回のワークショップの構造、プログラムと各回の参考文献。  | 9  |  |
| LB18-4  | 子どもの目線で町分析   | 子どもが巻き込まれる事件が増えています。防犯対策だとか、防犯カメラだとか、果たして、子どもたちに、この社会に生きる喜びや力を感じられるような内容と方法で取り組まれているのでしょうか。          | 6  |  |
| LB18-5  | 子どもたちと考える生と性                                       | 生と性に関する教育的取り組みを始めるときに、自分自身が、そして仲間とともに共通理解してくるとよいことは何でしょう。先進事例などをもとに考えます。                             | 8  |  |
| LB18-6  | 解決力トレーニング・マニュアル-中等教育段階の子どもの解決力を育てる                 | 中等教育段階の子どもたちが、対立や感情についての理解を深め、自分自身で、そして仲間の協力に対立を解決する力を育てる3日間のプログラム。指導者用マニュアル。                        | 16 |  |

|         |  |   |    |  |
|---------|--|---|----|--|
| LB18-7  | 地球家族を用いた人権プログラム                            | フォトランゲージ「地球家族」を活用し、「人が人として十分に生きる」ために、どこの国の誰にとっても共通に必要なもの：「人権」を具体的に考える、意外な展開のプログラム。  | 3  |  |
| LB18-8  | 身近な体験を教材に                                  | 文、会話、ルポルタージュなど、身近にある素材を用いて、アクティビティをつくってみましょう。個別課題を通して、普遍的に共有したい人権の概念を伝える工夫をしてみましょう。   | 6  |  |
| LB18-9  | さまざまな感情                                    | 知識中心主義を脱し、全人的な成長を扱うとすれば、感情を扱うことは、避けられないことです。強い感情が、強い意志や強い意志に基づく行動にもつながります。教育において、感情を抑圧するものは何か、その背景を探り、わたしたちにできることを考えます。                 | 2  |  |
| LB18-10 | からだからだ                                     | 心とからだの統合をすること、「内側からの力」を発揮しやすくなるためのトレーニング・セッションです。わたしたちのからだは健康になりたがっているのです。  | 4  |  |
| LB18-11 | 一言自己紹介 アイデア集                               | 多様な側面を持つわたしたち。自己再発見とともに、多面的に人と出会う道具として、アイスブレイキングや、新しいメンバーと知り合うた機会に「一言自己紹介」を活用してみましょう。   | 3  |  |
| LB18-12 | ファシリテーター「技」の言葉                             | ふりかえりや話し合いの広がりをもたせ、深化させるためにファシリテーターが投げかける言葉とは？ファシリテーターの心がけを考えるプログラムも紹介。   | 4  |  |
| LB18-13 | スモールサイズワークショップの進め方                         | 4-5人のワーキング・グループを対象とするスモールサイズワークショップファシリテーションの実践に必要な配慮には何があるか、まとめてみましょう。   | 6  |  |
| LB18-14 | 問う力  | 言われれば反発する、問えば考える、共に考えることを推進するファシリテーターにとって、「問う力」をつけることは必須です。「科学の構造」などの補助線の使い方を「問う力」にさらに取り入れたいと思います。                                      | 4  |  |
| LB18-15 | 新たな公共                                      | 「新たな公共」を市民参加に対して開いていくことが求められています。公共的な価値観をそれらの判断の点検の視点とするために求められることは何でしょうか。  | 4  |  |
| LB18-16 | 個の権利・コミュニティの論理 近代の人間化                      | わたしたち一人ひとりが健やかに生きることの条件に「社会」という要素、コミュニティの存在は必須です。個人個人の健やかさとコミュニティのこれからを結ぶその方法が、いま、求められています。   | 4  |  |
| LB18-17 | ことば・言葉・言語                                  | わたしたちは、重層的なコミュニティに所属しつつ、人間的成長を遂げてゆきます。コミュニティへの所属は、ことばの獲得に伴って進みます。それぞれのコミュニティで、どのような価値観が共有されているか、ESDの理念から点検してみましょう。                      | 4  |  |
| LB18-18 | "No Child Left Behind-世界の教育改革"             | 知識社会、情報社会というのは、モノではなく、人間をベースにした社会です。これからは、人間を大事にする国が伸びる時代なのです。今回は、教育改革全般について、国の教育政策を比較してみます。  | 4  |  |
| LB18-19 | 教育改革のロードマップを創ろう！                           | 先進国のほとんどは、未来は教育にかかっていると、真剣な取り組みを始めています。「No Child Left Behind」では世界の教育との比較を試みました。このレッスンバンクでは、教育改革のロードマップはどのように描くことができるのかを考えます。            | 4  |  |
| LB18-20 | よりよい教育をすべての人に2005                          | より質の高い教育（BQOE）とは、すべての人にとってのエンパワメントのための教育です。エンパワメントを構成する3つの力Power to,Power with,Power withinの背景と、それぞれの力と伸ばすためにファシリテーターが貢献できることについての提言です。 | 8  |  |
| LB18-21 | コミュニティ・ビジョン                                | コミュニティ・ビジョンは、市民一人ひとりが十分に知識を得て、どのような社会でありたいかというビジョン持って社会的参加することで、よりよい未来づくりを目指す方法論です。コミュニティ一人ひとりの成長を通じたコミュニティ育てにご活用ください。                  | 13 |  |
| LB18-22 | "2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>④対立から対話へ"  | 『対立から学ぼう』『対立は悪くない』を用いて、基本概念とスキルの習熟をはかりながら、学校文化のなかの対立をいかにこえるかを考えたプログラム。  | 7  |  |
| LB18-23 | "2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>⑤開発のための教育" | ユニセフ「開発のための教育」のテキストを通して、5つのグローバルコンセプトと、その学習プロセスについて学んだ記録。   | 7  |  |
| LB18-24 | "2005ESDfc.byERIC アクティビティコース<br>⑥未来を学ぼう"   | 価値観とビジョンを育てることの意義を共有し、「内面の変化があり、外面の変化を導く」という学びのサイクルをどのように実践推進していくのかを学んだ講座。  | 7  |  |

|         |   |  |    |     |
|---------|---|--|----|-----|
| LB18-25 | "2005ESDfc.byERIC チャレンジコース<br>④持続可能なコミュニティ"     | これからのよりよい教育を考えるために、戦後60年の教育の歴史をインタビューで共有しました。ライフストーリーインタビューに、参加型の学びの手法としての可能性を見出した講座の記録。                     | 8  |     |
| LB18-26 | "2005ESDfc.byERIC チャレンジコース<br>⑤TEST in 東京"      | エンパワメントの3つの力のうち、特に内発的動機づけ(power within)をサポートする教育環境としてのより質の高い教育(BQOE)のあり方を中心に検討した2日間の記録。                      | 7  |     |
| LB18-27 | "2004ESDfc.with ERIC TEST in 名古屋"               | より質の高い教育(BQOE)を、すべての人に届けるエンパワメントのための教育の3つの力(power to,power with,power within)について、考えた、NIED・国際理解教育センターとの共催講座。 | 8  |     |
| LB18-28 | "2005ESDfc.with ERIC TEST in 大阪"                | より質の高い教育(BQOE)実現に向けて、バリアの克服と個人個人のエンパワメントの課題を中心に取り組んだ、大阪ファシリテーター・ラーニング・ネットワークとの共催講座の記録と成果物。                   | 20 |     |
| LB18-29 | ERICファシリテーターハンドブック 2005                         | 持続可能な未来を拓く学びを推進するファシリテーターのための1冊です。ファシリテーターとして共有しておきたいことや概念、アクティビティなどについて系統化したものを収録しました。                      | 30 |     |
| LB19-1  | 身体接触のあるアクティビティと人権                               | 身体接触は「人間」としてお互いを体感するチャンスでもありますが、「セクハラ」にもなりえます。「今、ここ」に存在し、葛藤しながら配慮を考えます。                                      | 8  |     |
| LB19-2  | インターネットの人権侵害について考える                             | インターネットの自由さと柔軟さ、発展を享受したければ、そこに公共性を育てていく必要があります。今行わなければならないのは、規制によるのではなく、わたしたちが作り出したいものは何かを共有し、実現していくことです。    | 3  |     |
| LB19-3  | 識字の暴力と無文字社会の知恵                                  | 近代化を課題とすることに抗う無文字を選択した社会と、科学産業社会の未来を構想する識字社会の違いを踏まえたうえで、よりよい持続可能な社会としての共生のルールを考えてみましょう。                      | 4  |     |
| LB19-4  | フード・マイレージ                                       | 食育、食農教育の流れと、フード・マイレージやエコロジカル・フットプリントなど、自分たちのライフスタイルを見直す新たな取り組みを合わせた「食農地球教育」のアクティビティ。レッスンバンク利用者の声から生まれました。    | 4  |     |
| LB19-5  | 市民性教育としてのリスク教育                                  | 化学物質のリスクについて、何のために、なぜ、どのように学ぶのか。参加型で、わたしたちの身の回りにある「リスク」について考えてみよう！   | 7  |     |
| LB19-6  | ○抜きのお意  | 女言葉や階級遵守など「言語の意識化」を日英比較などによって学ぶために、導入として使うアクティビティ。   | 9  |     |
| LB19-7  | 最期の3ヵ月中止  | 昨日「余命3ヵ月」と言われた。今日はどんな1日を過ごしたい？ 「死なない薬」があったら飲み続けたいか？ その他1日を精一杯生きるアイデア満載。                                      | 10 | 未完成 |
| LB19-8  | 数の持つ意味を感覚的に理解する                                 | 統計などの数を、諸感覚を使って量や比重を感じ取り体感する、自分の感情の動きを出発点に理解を深める簡単でインパクト大のやり方を紹介します。   | 4  | 未完成 |
| LB19-9  | PLTアイスブレイカー                                     | PLTコーディネーターたち間で活用されているアイスブレイキングのためのアクティビティ群を紹介します。   | 4  |     |
| LB19-10 | 質の高い環境教育のためのガイドライン<br>Guidelines for Excellence | 北米環境教育連盟 NAAEE が作成した「バランスのとれた、科学的に正確であり、包括的な環境教育プログラム」のためのガイドラインシリーズから、環境教育教材の開発と選定に関するガイドラインを紹介します。         | 8  |     |
| LB19-11 | わたし・あなた・みんなのスキル・ビルダー                            | スキルを育てるための「プログラム・アクティビティ」「環境や風土の整備」「個別への働きかけ」「自己習熟のためのふりかえり」の4つをビルダーと位置付けました。計画点検表を用いて、スキルを育てる環境整備にご活用ください。  | 11 |     |
| LB19-12 | 教育マニフェストを作ろう                                    | ESD-Jの関係者と取り組んだ「教育マニフェストKJ法ワークショップ」の紹介。それぞれの現場・コミュニティで、教育について広い視野からの深い対話をすすめていく参考にしてください。                    | 6  |     |
| LB19-13 | 教育の創者未来   | 教育を千年の単位で見直されなければ、近代を超えるものは作れない。「千年続いてきたもの」を探ることを出発点として、望ましい未来と教育のあり方考えるプログラム。                               | 2  |     |
| LB19-14 | デモクラシー・マニフェスト                                   | 私たちは、私利私欲と公共性の間でジレンマを抱える存在です。だからこそ、公共性を一人ひとりが身に付け実践するという約束がなければ、社会に対する信頼も育ちません。「デモクラシー・マニフェスト」を作ろう！          | 5  |     |
| LB19-15 | レスリー・コームズ 来日プロジェクト                              | 新版『PLT-木と学ぼう』の教材開発、推進に携わっているレスリー・コームズさんの来日を得て、2006年6月、宮城、東京を結びシンポジウム・ワークショップで構成したプロジェクトの全体像。                 | 3  |     |



|         |  |  |    |      |
|---------|--|--|----|------|
| LB19-16 | レスリー・コムズ 来日プロジェクト／仙台講演<br>科学を身近に                     | 米国の、子どもや一般の人々にとって科学を身近なものにする「科学コミュニケーション」のさまざまな事例と「科学コミュニケーション」の目的について。東北大学で開催されたシンポジウムでのレスリーさんによる講演記録 原文とも。               | 3  |      |
| LB19-17 | レスリー・コムズ 来日プロジェクト東京講演<br>米国の環境教育                     | 日本女子大学で開催された公開シンポジウムでのレスリーさんによる講演記録 原文とも。米国の環境教育事情について、子どもたちにどう伝えているか。どのように実施されているかの視点から。                                  | 2  |      |
| LB19-18 | レスリー・コムズ 来日プロジェクトワークショップ<br>外来種を考える                  | 仙台 尚絅女子高等学校選択科目「地球環境」の生徒を対象としたレスリーさんによるワークショップの記録。PLT Secondary module Forest Ecology 収録「マイマイガの物語」を日本に合わせて実施。              | 7  |      |
| LB19-19 | レスリー・コムズ 来日プロジェクトワークショップ<br>科学を身近に                   | 東北大学で開催されたレスリーさんによる伝える立場の人を対象としたワークショップの記録。対象の分析、専門用語の課題、概念をアナロジーで、非言語コミュニケーションの果たす役割。ワークシートも収録。                           | 6  |      |
| LB19-20 | レスリー・コムズ 来日プロジェクトワークショップ<br>木と学ぼう・世界の森林              | 日本女子大学で開催された公開シンポジウムで行われたワークショップの記録。新版『PLT-木と学ぼう』のアクティビティ：「みんな木からできている」「年輪」「木はどれだけ大きくなったか」を体験。                             | 5  |      |
| LB19-21 | レスリー・コムズ 来日プロジェクト<br>地球科学・先端技術・人間科学と環境教育をつなぐ         | 東北大学シンポジウムでのERIC角田尚子の提言「未来・人権・教育-いま&これから、わたしたちにできること」の資料。○環境教育推進のための教材・人材・実践○質を高めるためのガイドライン○大学の教員養成課程から始める○環境教育を環境保全とつなげる。 | 5  |      |
| LB19-22 | 2006ESDfc.at ERIC アクティビティコース<br>①ワールド・スタディーズ         | ワールド・スタディーズ の基本概念の理解やファシリテーション実践、行動計画づくりを通し、確立された基礎をESDの視点で現在にどのように活かすかを考えた講座の記録。  | 7  |      |
| LB19-23 | 2006ESDfc.at ERIC アクティビティコース<br>②PLT-木と学ぼう           | 2006年改訂版アクティビティガイドの翻訳を開始し、その内容を活用した研修。リーダーとして二つのテキストの有効活用の仕方も検討。   | 7  | 未完成  |
| LB19-24 | 2006ESDfc.at ERIC アクティビティコース<br>③人権教育-気づきから築きへ       | 明るく真剣さで人権を自分のこととして考え、一步を踏み出すことのできるプログラム。そのような「気づきから築きへ」プログラムを通して、人権尊重文化の創造をめざす人のための講座の記録。                                  | 7  |      |
| LB19-25 | 2006ESDfc.at ERIC アクティビティコース<br>④対立から学ぼう             | 豊富な資料と深め方で、身近にある「対立・葛藤」に実際にどのように向き合い、存在するかを共に体感した濃厚な2日間の記録。ロールプレイに注目！  | 19 |      |
| LB19-26 | 2006ESDfc.at ERIC アクティビティコース<br>⑤未来を学ぼう              | 未来を学ぼうは価値観とビジョンを学びます。経験の広がり→ふりかえり→目的意識→ビジョニング→行動計画と学びのサイクルのプログラム記録です。  | 21 |      |
| LB19-27 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>①テーマワーク                | どのように共有したい理念や概念やテーマに迫り、アクティビティとして練り上げることができるか。アクティビティづくり、実践、評価/改善などを通して学んだ講座の記録。   | 7  | 未完成  |
| LB19-28 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>②環境                    | テキスト『環境教育指導者育成マニュアル』を活用し、環境教育そしてESDの指導者に必要な内容・方法について、幅広い視点から検討した講座の記録。   | 7  | 未完成  |
| LB19-29 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>③人権教育を学校全体で            | 近代学校教育がもたらしたもの、「ことば、言葉、言語」という視点で現状を捉え、人権教育・教育が今何にとりくまなくてはいけないかを考えた2日間の講座記録   | 7  |      |
| LB19-30 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>④わたし、あなた、みんなのスキルトレーニング | 「わたし」「あなた」「みんな」のスキルとはどのようなものなのかを考え、子どもの発達段階に応じて目標を設定し、その時々におけるスキルをのばす工夫をしました。そのような力をつけることを目標とした講座記録。                       | 13 |      |
| LB19-31 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>⑤地球のみかた                | ESD推進のためのチェンマイ・ワークショップの成果を「地球のみかた」に適用することで、ESDへの理解とトレーニングのためのスタンダードを追求します。   | 5  |      |
| LB19-32 | 2006ESDfc.at ERIC チャレンジコース<br>⑥TEST07 in 東京          | 「参加者(学習者)」について理解を深めるため、「状況マッピング」を活用。情報を多段階的に蓄積し、ESD推進の課題・指導者に求められる資質を分析した。   | 8  |      |
| LB19-33 | from ERIC 07県域で取り組む人権教育                              | 2003年度から県内の小・中・高・特別支援学校全校教職員対象の人権研修を開催している自治体で、07年度のべ8人のファシリテーターが実施した研修記録のまとめ。   | 5  |      |
| LB20-1  | 緑の空間-100ドットシールの使い方                                   | 自分の住んでいる町で緑の占める割合はどのぐらいだろう。また50年間でどれだけ変化しただろう。グーグル画像を使って調べよう。  | 2  |      |
| LB20-2  | 2050年人権の未来   | 北九州の二日間の人権研修で、「未来学」の手法を取り入れて「人権尊重社会」の未来像を探り、そこに向けて自分ができるプロジェクトを計画実施評価した。   |    | 原稿なし |
| LB20-3  | ラブカナルは遠いか  | レッスンバンクでも『環境教育指導者育成マニュアル』でも紹介した「ラブカナルの住民運動」で学んだことを「点検」の視点に、現実をどうする？に迫る。  |    | 原稿なし |

|         |   |  |    |                   |
|---------|---|--|----|-------------------|
| LB20-4  | 大分ユニバーサル合宿プログラム + 世界とつながる500円台紙                 | 大分のリンクプラネットという団体が主催している合宿。今年是对立の扱い方と「500円玉台紙の作成を行った。「対立音頭」は対立の扱い方が歌詞。                              |    | 原稿なし              |
| LB20-5  | 2007ESDfc.at ERIC<br>PLT-木と学ぼう Energy & Society | 日本版モジュール『Enegr & Society』をテキストとして、アクティビティ実践や、PLT推進の課題について考えた、2日間のPLT研修の記録。                         |    | 原稿なし              |
| LB20-6  | 2007ESDfc.at ERIC<br>PLT-木と学ぼう 上級者育成            | これまで多くのPLTファシリテーター養成に関わってきた山本幹彦さんによるリーダー育成講習会のプログラム。2008年12月実施。                                    |    | 原稿なし              |
| LB20-7  | 2007ESDfc.at ERIC 人権教育                          | テキスト『人権教育ファシリテーターハンドブック』を活用しての指導者育成プログラム。ネットワークファシリテーターと共に学んだ2日間の記録。                               |    | 原稿なし              |
| LB20-8  | 2007ESDfc.at ERIC いっしょに学ぼう                      | ERICネットワークファシリテーターと共に、アクティビティの体験やテキストの理解、テキストを活用した人材育成について考えた2日間の記録。                               |    | 原稿なし              |
| LB20-9  | 2007ESDfc.with ERIC TEST07 in 名古屋               | 「教育の創考未来」をテーマに、持続可能な社会や開発のために、教育は何をすべきかを、じっくり考えた2日間のプログラム。成果物の詳しい記録つき。                             | 29 |                   |
| LB20-10 | 2007ESDfc.at ERIC TEST07 in 東京                  | 質的研究力を高める。今年度のERICファシリテーター共通の課題としたいものです。質的研究力が教育実践力を高める! 学びはそれぞれ、向上心は共通なのだ!                        |    | 原稿なし              |
| LB20-11 | 2008ESDfc.at ERIC TEST08 in 大阪                  | TEST08 at ERICを「省察」と「自己のテクノロジー」「理念を教育的ツールに」という補助線でさらに深化させた!!!補助線も進化したが、学びも深化。                      | 20 |                   |
| LB20-12 | TESTの歴史   | 2000年から続いているTEST教育力向上講座は、ERICがめざす2年間の教育的指導者育成コースの最後を飾る研修である。毎年の成長記録。                               |    | 原稿なし              |
| LB20-13 | 環境基本計画市民ワーキング                                   | 2010年の政令市移行に向けて環境基本計画見直しを進めている相模原市を事例として、市民ワーキングプログラム案を紹介。   |    | 原稿なし              |
| LB20-14 | 食農地球教育07 学習会プログラムおよび教材集                         | 2007年度ERICが主催した連続学習会Focus on Foodsの成果を、ファシリテーターとして「食農地球教育」の学習会を実施しやすくしようとまとめたものです。                 | 25 |                   |
| LB20-15 | コミュニティを創るのはわたしたち                                | 「持続的な地域社会の創造に向けて、子どもたちに提供したい学習プランとは。PLTが提起する中等教育向けモジュール『Places We Liveわたしたちの住む場所』を、6年生対象に展開した事例です。 |    | 原稿なし              |
| LB20-16 | 岬町学校評価・創考未来プロジェクト 報告書                           | 学校評価、授業評価を市民・生徒・先生・教育委員会による参加型で実施。エンパワメントにつながる評価とは何かを検証。   | 7  |                   |
| LB20-17 | PLT/ERIC ファシリテーター・ハンドブック 08                     | PLTのファシリテーター・ハンドブックをベースに、ERICファシリテーターのための研修プロップを追加した。人権研修プログラム事例も2例所収。                             | 42 |                   |
| LB20-18 | よりよい環境教育推進のためのハンドブック                            | 北米環境教育連盟「よりよい質の環境教育のためのガイドライン」、PLTはプログラム改善(MPI)、組織運営の改善(BAMPSAT)をどう活かす?                            |    | 原稿なし              |
| LB20-19 | ESD ツリーニュース                                     | 2007年度、ERICメールマガジンに連載したPLTならびに中国の環境問題に関する報告など、いずれも入手しにくいレポートを編集しました。                               |    | 原稿なし              |
| LB20-20 | アクティビティ事典08                                     | 「ワークシートをアレンジして使いたい」。高校の先生の要望に応じて、新たにERIC34出版物の分析の枠組みを活用しやすくデータで収録。すでにお持ちの方には5000円で更新します。           |    | 原稿なし              |
| LB20-21 | 書いてみよう<br>日本語と英語で表現する自分発見ノート                    | 高等学校で長年国語を指導してきた角田登による「書き方」指導集。あまりにもERICの発想と組み立てが似ていたことに驚愕。娘の竹鼻圭子が編集。                              |    | 送料・手数料込み<br>で500円 |